

UFO・超能力・宇宙哲学

UFO

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO・ESP・Cosmic Philosophy
コンタクティー

contactee

SUMMER
1997

137

UFO頻出のデザートセンター!

私は至近距離でアダムスキー型円盤を見た
宇宙の真実を語るアダムスキー
ケネディー大統領はドイツに転生?!

肉体を超えて大宇宙と一体化する方法



CONTENTS <Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness>

<巻頭言>直感力 1

UFO頻出のデザートセンター! 久保田八郎 & 黎明会 2

私は至近距離でアダムスキー型円盤を見た 中里 信彦 16

空中に不思議なサインが出現 加藤 純一 18

アダムスキーは本物中の本物 橋本 恵一 20

日本GAP、テレビ出演 21

GAP短信 22

科学—SCIENCE 23

宇宙の真実を語るアダムスキー 肥後 哲也 26

転生のメカニズムについて 千葉 福造 28

ケネディー大統領はドイツに転生?! 久保田八郎 29

大宇宙の無限の力による長寿健康法(完) 塩谷 信男 33

<広告> 日本GAP第17回海外研修旅行「イスラエル聖地遺跡の旅」 37

肉体を超えて大宇宙と一体化する方法 ジョージ・アダムスキー 39

UFO contactee バックナンバー主要記事 46

<予告> 第1回福山支部大会 47

<投稿欄> ユーコン広場 48

編集後記 51

日本GAP全国月例セミナー案内 52

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について「知る」機会を与えられるべきであるという見地に基いて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来るべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大國政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立つ幸いです。

日本GAPへ入りませんか

●日本GAPはわが国最大のUFOと宇宙哲学の会員制団体です。会員は約1600名。世界でもトップクラスの研究集団として、国際的なUFO団体や個人研究者と交流を保っています。

●東京本部と地方の16支部は毎月、月例セミナーを開催し、UFO問題や宇宙哲学について研鑽しており、UFO観測会その他の会合を開催して活動しています。

●東京では毎月第1日曜日に港区東京タワー前の機械振興会館で月例セミナーを開催。わが国のUFOと宇宙哲学研究の大先駆者・久保田八郎会長の解説講演、超能力開発練習、UFOビデオ映写、その他を実施。宇宙的な波動のもとに真面目に研究し、品格のある楽しい雰囲気にも満ちています。

●入会は中学生以上なら誰でもできます。下記へハガキで案内書をお申し込み下されば、お送りいたします。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP ☎03-3651-0958

<表紙写真>

1971年5月23日の昼過ぎ12:30頃、オーストリア、シュタイエルマルク地方のドイッチュラントベルクの森林地帯を奥さんと共に散歩中のルーティ・ナゴラ氏の頭に、突如銀色の円盤型UFOが出現し、木の葉のように上下運動をくりかえした。氏は持っていたカメラでフィルム全部を使用して撮影。その後、物体は飛び去った。©日本GAP

〈巻頭言〉
直感力



本誌一三六号は大体に好評であった。特に「愛と救いの異星人交信」と題する記事に感動したという声が多かったが、これで購読をやめるという通知も少しあった。人間の好みの多様性を痛感する次第である。こうした差異がどこから生じるのかという問題は深遠であつて簡単に結論づけるわけにはゆかない。ひとつ言えるのは、人間個々には過去世からのカルマによる「何か」があつて、これが認識力を左右するらしいのだが、人間の転生（生まれ変わり）なるものが科学的に解明されない

現在、表面的には仮説の域を出ない。

転生の法則は昔から哲人達によつて唱えられてきたけれども、これを具体的に説明したのはジョージ・アダムスキーである。彼は一九五二年一月二〇日、米カリフォルニア州南部の砂漠地帯デザートセンターで異星の小型宇宙船から降り立った一人の異星人と劇的な会見をした。この詳細は新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』に述べてある。

この異星人をアダムスキーは地球式に仮の名でオーソンと名づけているが

（異星人はテレパシーや遠隔透視力のパワーを持つので人名は存在しないという）この人は実は二千年前にエルサレムで大悲劇の主人公となつた偉人であつて、彼は十字架上で死んだのではなくて仮死状態のまま降ろされて葬られた夜、スペースピープル（異星人）

が特殊な機械で放射線をあてて蘇生させた上、スカウトシップ（円形小型宇宙船）に乗せて連れ去つたというのが真相だという。彼は二千年前、異星から転生してきた人で大超能力者であつた。地球人を救済するために徹底して愛の哲学を説いたのだが、多数の群衆が彼を思慕したのは、超能力で難病患者を即座に治したり死者を生き返らせたりしたからである。その後異星へ帰還して二千年後に再度異星から今度は現身のまま宇宙船で地球を訪れたけれども、そのときに、かつての二人の弟子の一人であつた男と再会した。それがアダムスキーであるという。

ゴルゴタの丘で死刑に処せられようとしたとき弟子達の大半はローマ兵を恐れて逃げたが、一人だけはそばにいて最後まで師を救出しようと機会をうかがつていた。「自分は最後まで十字架上の師を見守つていた記憶がある」とアダムスキーは門下生達に語つたと聞いている。二千年の歳月を経て二人はデザートセンターで劇的な再会をした。「今度はあなたを助けてあげよう」と異星人はアダムスキーを激励したと

伝えられている。以上の話はむかし筆者がアメリカで、かつての高弟であつた人達から直接聞いた話である。

問題はこのような説に対する人間の信・不信にかかつている。こんな荒唐無稽な話を誰が信ずるか一蹴する人もあるだろうし、いや、これは真実なのだという魂の雄叫びを自覚する人もあるだろう。このような差異は何に起因するのかといえば、それは前述のように一人間の過去世に体験された多くの生涯において蓄積された自己の学習の結果による認識力の差によるというのがアダムスキー哲学である。

そこで必然的に人間の転生という現象が重要となつてくるのである。これについて現状は科学的な解明の段階にないことは前述のとおりであるが、カントの言うような人間のアプリオリの直感力による認識には必ずしも物証を必要としない。大体に多数の偉大な発明発見は多くの場合、人間の直感力が源泉をなしていることを忘れてはならない。初めに人間の直感力ありきで、初めに計算が行なわれるのではない。

今後科学はさまざまの勢いで進展するだろう。近未来は衛星利用電波による携帯電話で世界のいかなる場所でも瞬時に連絡可能になるし、コンピュータによる情報交換も日常茶飯事になると思われる。だが一方ではプライバシー防衛面で問題が生じるかもしれない。機械による情報伝達には法規制の

実施が困難であるからだ。しかも通信内容の墮落に伴つて米科学者クリフォード・ストール氏の言うように社会的腐敗が生じるだろう。したがつて外部に漏洩しない二者間だけの通信手段となれば、電波に頼る旧来の方法では弊害の発生が便利さを上回るかもしれない。

そこで台頭するのが精神による伝達手段すなわちテレパシー（心による遠隔通信）やクレヤボヤンス（遠隔透視力）の発達である。これは訓練によつて誰でも開発が可能であると言われている。二一世紀は人間の精神に秘められている未知の力の開発時代になるだろう。アダムスキーは過去世の記憶を保持し、過去世透視が可能であつたというが、これに類する過去世透視能力者は編者の身辺に若干存在する。これらの人々との交流を通じて痛感するのは、この物質文明のトリコになつている地球社会はいずれそのツケを少し払つた上で、来世紀は全く新しい宇宙的な時代に入るだろうということである。そのときには太陽系の偉大な発達を上げた先進惑星群の仲間入りをして地球も飛躍的な進歩を迎えるだろう。

だから地球大破壊というようなマイナスの予言類や情報に惑わされないことだ。いま流行りの映画に出てくる極悪異星人来襲説も事実無根であるから恐怖心を起こすのは禁物だ。あんな現象が地球で発生することはあり得ないとみてよいだろう。

UFO頻出のデザートセンター!

●アダムスキーと異星人とのコンタクト地点で驚異の連続出現
久保田八郎 & 黎明会有志

日本GAP内の強力な支援グループである黎明会は各種の行事や活動で目覚ましい活躍を続けているが、去る九六年の年末から九七年の正月休みにかけて、またもアメリカ、カリフォルニア州デザートセンターへの旅を実施した。同会は約二年前にここを訪れたので、これが二回目である。デザートセンターというのはカリフォルニア州南部の砂漠地帯で、一九五二年一月二〇日、ジョージ・アダムスキーがここに着陸した金星のスカウトシップ（小型円盤）から降り立った金星人と劇的なコンタクト（会見）をした場所である。この詳細は新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）に掲載されている。今回はなぜかUFOが頻繁に出現して一同を驚喜させた。以下は参加者の体験記。

予感的中した

★久保田八郎

今回のデザートセンター行きには事前に予感めいたものがあって、かなりドエライ事が発生するのではないかと、一種の胸騒ぎがしていた。私はむかしからこの土地へ何度も来ており、特に一九八九年一月二〇日、八名から成る調査団を編成してここへ来た

きに、アダムスキーがコンタクトした正確な位置を私が発見してからは、私だけでも一〇回あまりここを訪れている。それほどにこの場所は私達にとって重要な原点なのだ。

昨年の一二月三十一日、黎明会メンバーの一二名と共に勇躍成田空港を出発してからの機中では、かなりリラックスできた。これは機内で『インデペンデンス・デイ』を上映していたせいかもしれない。子供っぽい映画だったが、

▼成田空港に集合した日本GAP黎明会旅行団

前列左より西川太、福井貴子、高橋美貴子、久保田八郎、城真美子、会田裕子、岡田茂。
後列左より三島孝博、木多見昌弘、大根田匡史、小原明、加藤純一、津田篤孝。

撮影/久保田八郎（セルフタイマー）





▲1997年1月1日、カリフォルニア州南部のバームスプリングズで午前9時前頃、突然上空に出現したUFO。宿舍のトラベロッジ・バームスプリングズの中庭テラスで西川太がペンタックスZ-50Pに80-200mmズームレンズで撮影。同時に加藤、津田、木多見、小原、岡田、城、会田、福井、高橋、三島が目撃した。詳細は本記事中の各自のレポートに述べてある。秋山真人氏の鑑定によれば本物のUFOだという。

CGを応用した特撮には見るべきものがあつた。

アメリカの大晦日にロサンジェルズ着後、旅行会社を経営する私の親類のK氏が手配してくれた運転手付きの中型バスでまずユニバーサル・スタジオへ行く。ここはユニバーサル映画の壮大な野外セットのある場所、今は一大遊園地になっている。ここを出てから夕暮れの中を一路南下してバームスプリングズへ向かう。この町はリゾートとして名高い所だが、到着した夜の町はクリスマス以来の野外の電飾で燦然と輝いて、まるで夢のような光景だ。広大な敷地の中に点在するモーターホテル『トラベロッジ・バームスプリングズ』へ宿泊。ここでサンフランシスコ郊外に住むダニエル・ロス氏が到着して再会する。氏はなんと約八〇〇キロ北の自宅から車で来たという。別な用事もあって、このあとサンディエゴへ行くと言っていた。

現！ 宿舍前でまずUFOが出現！

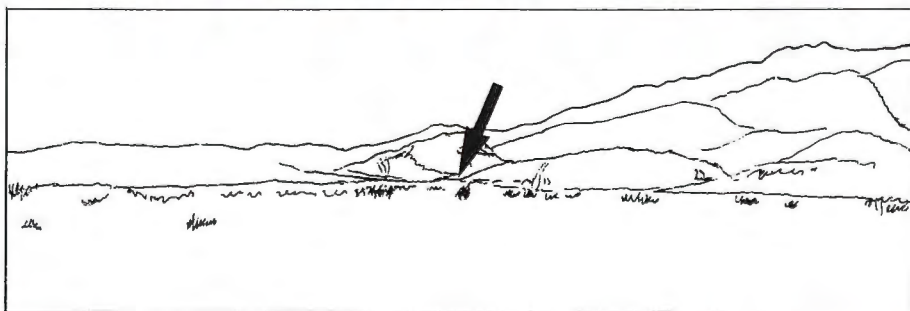
翌二日朝、宿舍前に九時集合なので支度をととのえて行ってみると、数名が興奮して騒いでいる。今さっき、この広場の上空にUFOが低く出現したというのだ。写真も撮ったので帰国後見せるといふ。幸先の良いことだ。スピープーブルが祝福して下さったのだろうと喜び合う。これが第一回目の



▶ 宿舍のトラベロッジ・バームスプリングズの一部。広大な敷地にこのような棟が六棟ある。撮影／久保田八郎

出現だった。

車二台で出発。途中、デザートセンターの中心部にあるガソリンスタンド前の広場にあるレストランで昼食をとる。この食堂はむかしアダムスキー一



●デザートセンターのコンタクト地点を遠望

下の図の矢印の場所がアダムスキーと異星人との会見地（1952年11月20日）

撮影／久保田八郎 フジGSW・ベルビア

▼撮影中の筆者 撮影／西川 太



行もコンタクト前に立ち寄ったという由緒ある場所だ。しかし、このあたりは私が知る限りの二十数年前に比べるとうずいぶんさびれている。極端に過疎地になったらしい。

パームスプリングズの朝は曇っていたが、デザートセンターに着いてみると青空が展開して絶好の撮影日和となった。バスを降りてから、まず私が道路脇の位置からプロローニーカーメラでコンタクト地点を中央にして広大な砂漠地帯を撮りまくる。撮影画面に人間が入ると具合が悪いので、その間一同は後方で待機。

砂漠といってもアフリカのエジプトに食い込んでいるサハラ砂漠のような微細な美しい砂の海ではなく、固い地面に石ころが転がり、低い灌木が点在する不毛地帯である。ここは米西部に展開する大モハーベ砂漠の一角なの

だ。真夏は摂氏四〇度を超えるので二時間もいられないが、今は摂氏一四度。日本の春先の気温だから快適だ。

写真撮影が終わってから一同はそろそろと歩いてコンタクト地点へ向かった。車を降りたパーカー街道からコンタクト地点までは六〇〇メートルある。これは以前に来たときにメンバーが巻尺で計ったので正確に分かっている。だだっぴり地面なので遠方がすぐ近くに見えるけれども、実際は東京の銀座一丁目から六丁目の松坂屋までの距離があるのだ。ここへ来るたびに人間の目が起こす錯覚について考えさせられる。

またもUFOが出現！

このコンタクト地点は、一九八九年一月二日にロス氏夫妻を加えて日本GAPの計七名のグループで調査に来たときに、私がジョージ・ウィリアムソンの著書『宇宙語・宇宙人』の中に掲載されているコンタクト地点の写真を参考にしながら探しまわって全く偶然に見つけた場所である。偶然というよりも、上空のUFOから何かの波動によるリモコン操作で私がそこへ引つ張られて行ったのだろうと確信している。このような広大な砂漠地帯でこんな特殊な場所が偶然に発見されるとは考えられないからだ。

ウィリアムソンはアダムスキーがこ

こで金星人とコンタクトしたときに遠くから目撃した六名の同行目撃者の一人で、コンタクトの直後、人類学者の彼は金星人の足跡の不思議な図形を石膏にとっている。そのときの写真が絶大な役割を果たしたのだ。

あの不思議な図形は宇宙船の推進原理の一部分をあらわしたもので、これは日本GAP本部役員の遠藤昭則君がほぼ解明しており、その論文は本誌に

▲一九五二年一月二〇日、デザートセンターのコンタクト地点に着陸した円盤から降り立った金星人が砂地に残した足跡の奇妙な図形を、しゃがみ込んで石膏をとるウィリアムソン（右端）。左からウィリアムソン夫人のベティ、アル・ベイリー、ルーシー・マクギニス、アリス・ウェルズ。この写真はウィリアムソンの著書「宇宙語・宇宙人」に掲載されたもの。



たびたび掲載された。

ついでながらウィリアムソンは、その後アダムスキーのグループを離れて単独で南米の古代遺跡の研究を続けたが、私と文通をするようになってから、なぜか私に親近感をもつようになったらしく、一度ロングビーチの自宅へ訪ねて来い、砂漠のコンタクト事件について詳細な情報を伝えてやるという書簡をよこし、彼の電話番号を内密に知

らせてくれた。その内いつか会えるだろうと思っていたら、今から一〇年以上前に彼が他界したと聞いて全く残念な思いをした。物事は迅速な実行が重要であることを腹の底から感じた一件であった。

このコンタクト地点でまず全員の記念写真を撮影するために並んでいたとき、私はふと西の方向の遠い空中に突然ピカッと光る物体を見た。

▲上のコンタクト地点と同じ場所に立つ黎明会旅行団。後列の右端はターニエル・ロス氏。写真の右端をカットして上の写真の画面と一致させた。

撮影/久保田八郎(セルフタイマー)



「出たーっ！」と叫んで指さすと一同いっせいにその方を見る。ドツと歓声があり、しばらく撮影中止。今日は沢山のお土産が出来るぞと言いながら、各自で撮影を続ける。

そのあと各自で広大な土地を散策したり休憩したりして自由行動に移る。そして何度かUFOを目撃したらしいが、私は一同がコンタクト地点に残したバッグ類の見張りをする役目になうことになって岩に腰かけていた。その間、遠い裏山の上の彼方に真っ白い大母船型の細長い物体が出現したのを見たが、本物かどうか確信がもてない。

そのあと各自で砂漠地帯を散策しながらひとときを過ごし、三時半頃にバスで帰途についた。バスの運転手さんはジョシユバさんというユダヤ系米人で、非常に陽気な親切な人である。三年前まで日本に二年間滞在し、英語を教えながら日本各地を歩いたという。したがって日本の各都市について驚くほどよく知っていた。明るくて底ぬけに親切な人柄というものは人間にとって最高に高貴な資質であることをアメリカの砂漠地帯で痛感する。

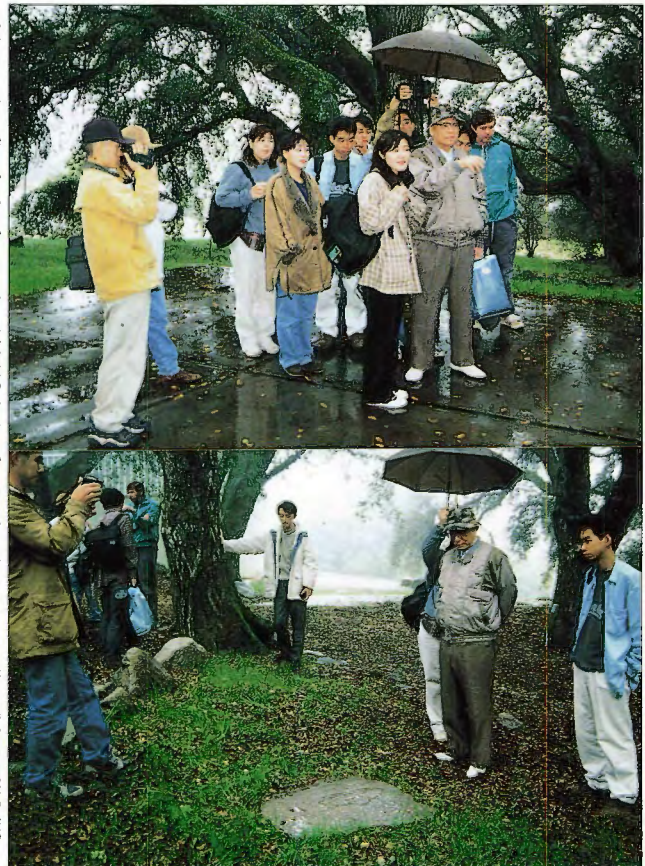
パームスプリングズの宿舎へ帰ってから一同で付近の大きなレストランへ入り、夕食会を開催後、宿舎の加藤君の部屋で質疑応答会を開催する。ここで、人間は本来他人を傷つけるような想念を絶対に起こしてはならないのだというようなことを話したと思うが、

よく覚えていない。約一時間で終了後、ロスさんをまじえて雑談に移る。こうして愉快な一夜をすごした。

霧に包まれたパロマー山

翌二日はパロマー山へ登り、むかしアダムスキーが住んでいたパロマーガーデンズへ行く。あいにくこの日は全山が霧で覆われて視界が定かでない。正月のこととて人気が全くなくて寂寥感がただよう。頂上の天文台はこんな日には閉鎖されていることを知っている。天文台見学は中止して、霧にぬれたガーデンズの野外のテーブルで昼食をすます。ただしパロマーガーデンズというのは昔アダムスキーがつけた名称で、現在は「オウク・ノル・キヤンプグラウンド」の看板が出ている。「樫の木の丘キャンプ地」という意味だ。

アダムスキーが築いた石組みなどはまだわずかに残っている。むかし弟子のアリス・ウェルズ女史が経営したレストランの跡はコンクリートで固めてあるが、これは永久に残されるらしい。ア氏亡き後に弟子であったインディアンの女性がこの土地を買い取って記念公園化したと聞いているので、その女性の身元について詳細を知りたくなり、管理人に質問しようとしたが、うながして管理室の戸を叩いたが不在だった。鬱蒼たる樫の大木群は昔のまま



▶パロマーガーデンズのアダムスキー住居跡。下はアダムスキーがセメントに彫り込んだ円盤の絵。
撮影／三國孝博

ある。

ここでロスさんと別れた。彼はここからサンデイエゴへ直行するという。これ以上の素晴らしい車はないという一九七〇年代の愛車プリマスを駆って下山する彼を一同で見送ったあと、私達も下山して、そのままロサンジェルスを向かった。そして夜、映画の都ハリウッドの町を散策し、翌日ロサンジェル空港から帰途についた。わずか五日間だったが、こよなく有意義な旅であった。

▼ダニエル・ロス氏の愛車(左)1970年代のプリマス・サテライト・セプリングと旅行団の専用バス。



★加藤純一

今回で三回目を迎えた黎明会主催のアメリカツアーも、行く先々で久保田先生による懇切丁寧な指導により大成功裏に終了しました。旅行中はたびたびUFOが出現し、写真やビデオにしっかりと収められています。

久保田先生の予言が的中

特筆すべきは、これらのUFO出現に関して、先生は出発前から確実に予知しておられ、撮影に成功した鑑定ずみのUFOの写真を見るたびに「このことだったのか!」と先生のテレパシク的な能力への賛嘆で胸が一杯になるほどの驚異的な目撃をメンバーと共に体験することができました。

今回のツアーは全体の行程にアダムスキー氏に関連のある土地を訪問することはもちろんのこと、最大の特徴として久保田先生による研修を盛り込んだことがあげられます。それは次のとおりです。

A、デザートセンターでのコンタクト事件に関する現地解説。
B、コンタクト地点での大宇宙思念法の実践指導。

C、宿泊地パームスプリングズでの第三回久保田先生との質疑応答会。

D、パロマーガーデンズでのアダムスキー氏の生活とネガホルダー投下事件に関する解説。

その他、先生には渡米二十数回というご経験からツアー全体のガイド役をお願いし、移動中は車内でカリフォルニア州各地についての詳細な説明を受けることができました。この研修様式による今回のツアーは先生の宇宙的な思想を一同で理解し、アダムスキー問題の重要性を再認識する実りある旅となりました。

出発前にUFOが出現!

出発前の九六年一月二〇日、H市にいた私は朝八時二十五分から一五分間、小型のUFOを目撃、撮影しました。この日早朝、大変不思議な夢で目覚めた私は「いま出現する!」という強烈な予感を起こして、8ミリビデオとコンパクトカメラを下げ、左腕で娘を抱いて外へ出ると、まるで私を待っていたかのように澄んだ青空の中を鮮明に輝きながら飛んで来る物体はまぎれもないUFOでした!

Y街道を横切りながらゆっくりと私のいた駐車場まで並行移動してきた物体は、やがて直角に方向を変えて、しかも最後には垂直上昇をしながら消えて行きました。この日の午後、念のために地元の前衛隊に問い合わせたところ、丁寧に答えて下さった気象隊

の方が「それはUFOでしょうね」と言われたものですから大変驚いてしまいました。またアメリカ旅行出発当日の三日にも小型のUFOを目撃しました。これはお迎えに行った久保田先生宅のマンションを出てからまもなくのこと、時刻は一二時五〇分前後だったと記憶しています。この物体は五階から見える住宅街の上空にゆっくりと降下しており、船体はタマゴ型で色はグレーです。立ち止まって観察してみると、ところどころ銀色にも見えましたが、不思議なのは突然ピタッと静止して数秒間滞空したことです。なおも見ていると、またゆっくりと降下して、ついには突然空中でパッと消えたのです。その間、一分もなかったのですが、先を歩く先生、津田氏、城さんにいち早く知らせることはできませんでした。

(これに似たような出現事件が九五年一月にも先生宅のそばでありましたが、この記事は本誌二一九号に出ています)

パームスプリングズでUFOが降下!

さて、旅行中は参加メンバー全員が協力しあい、自分の役割をしっかりと認識して協調性たつぷりのツアーとなりました。メンバーそれぞれが個別にUFOの目撃を体験したようですが、特に一月一日の朝に宿泊地であったパームスプリングズの宿舎上空に出現し

た円盤型UFOは、まるでデザートセンターへ出発する一行を祝福するかのよう超高空で出現し、西川氏によって見事にカメラに収められました。

この出現に関してはやはりUFOの出現時の独自の高揚感と衝動、そして見られているというフィーリングが役立つたことはいまでもありませんが、眼前の空間ではなく、後ろを振り返った(なぜそうしたのかは自分でもよくわかりませんが、ただその衝動、フィーリングに心の意見をはさまずに従うことが目撃のポイントではないかと考えています)その視線上で目撃出来たということ自体が、いつものことながら自分でも全く不思議です。

発見の時間は集合時間前の八時五〇分頃で、目撃時間は約一〇分間ほどでした。発見時には私以外に木多見さんと城さんがおり、テラスで軽い朝食をとりながら話をしていました。最初は本当に超低空で、おそらく地上約五〇メートル前後の位置に滞空していました。また船体は黒く(ときどき赤黒く)見えたのですが、各メンバーが集まってきた頃には太陽の反射かどうか判別がつかなかったのですが、鈍く光りながら無音で上昇し、雲のかかる高空へと移動してゆきました。

我々の騒ぎを聞きつけた宿泊者の何人かが(アメリカ人の方々)その物体を見た後、呆れ顔で部屋に戻って行くのと、みんなが「風船?」と言っている

るのを聞いて、「あれはUFOだ！
別な惑星から来た友人達だよ！」とハ
ツキリ言えなかった（実は自信がな
ったのです）ことに對して、私は今後
自分が持つべき能力として「宇宙的な
現象を見極める力」「受け取ったフイ
ーリングを確実に理解する力」また
「それらを上手に表現する方法」が必
要な時期にきているのだと強く感じま
した。またその逆もしくりで、絶対に
UFOだと思っても、何かを見聞
違えている場合だってあるのです。

これら旅行中の目撃体験から自分が
常識だと思っていた、あるいはこうあ
るべきだという習慣的な想念の危険性
が自分の中にもあるのだということ
を発見し、身にしみて理解できた貴重
なツアーとなりました。

話もどりますが、その円盤は久保
田先生を宿舎の部屋までお迎えに行く
ときにはもう見えなくなっていました。
しかし私が確信したのは、お迎えに行
く途中、岡田君の話を聞いたときです。
彼は二階の通路から双眼鏡で観察して
おり、写真のような銀色の円盤であっ
たと証言していたからです。ただし円
盤の縁の部分は写真とは違って白く光
っていたそうです。

また不思議なのは、私もカメラで撮
ったのですが、写したときには確かに
船体全体が光っていたはずなのに、な
ぜか出来上がった写真は黒く写ってい
ました。西川氏の場合はその逆で、レ

ンズごしでは黒くつぶれて見えたそう
で、帰国後こんなにも鮮明にプリント
された円盤の姿に大変驚いていました。

印象に従うことの重要性

さて実はこの日の朝は空に雲が多く、
デザートセンターに行くべきか否かを
津田氏と検討しておりました。

しかし先生はUFO出現の報告を受
けるや「よし、デザートセンターへ行
こう！」と即決され、なおかつ「現地
に行けば必ず晴れるよ」とやさしく言
われたのです。再度確認すると「現地
が晴れることは経験と印象で分かるん
だ」と言われるので、私と津田氏は先
生の言葉に従うことにしました。
先生の予言どおり、一行は青空の現

地で強い日ざしを受け、時折山を駆け
抜ける心地良い風に吹かれながら、素
晴らしいレクチャーを受けることがで
きました。日本GAPを三六年もの長
きにわたって維持されてきたその秘訣
は、久保田先生によるこんな時のリ
ーダーシップのあり方ではないかと思
った次第です。（直感力と決断力が組織
の維持と方向性に絶対に必要とされる
要素なのでしょうか、先生？）

こうした待ちに待ったデザートセン
ター見学の出発前に円盤出現騒ぎがあ
っても、メンバー一同は浮かれ騒ぐこ
ともなく、この旅のもう一つの大きな
目的でもある先生によるプロの写真撮
影中も指示どおり、静かに見守ってお
りました。

またもUFOが！

その後は全員で砂漠地帯を横断して
先生による正確なコンタクト地点やス
カウトシップ（円盤）着陸地点の説明
を一同で拝聴しながら時間はゆっくり
と流れてゆきましたが、UFO研究で
は現地調査を基本とした実証主義の姿
勢を徹底的につらぬいてこられた先生
のご説明は自信に満ち溢れ、まるで眼
前にアダムスキー氏とオーソン氏がい
るかのように感じられました。

感動的だったのは、みんなで行なっ
た大宇宙思念法の実践でした。こんな
歴史的な場所でのみんなとともに永遠の
時間を共有できるとは本当に嬉しかっ
た！ その他に新しい試みとして今回



◀コンタクト地点で久保田が説明。



◀大宇宙思念法を行なう。



◀「馬の鞍」と呼ばれる位置を探査。



◀夜の質疑応答会。撮影／西川 太

は特別に一時間の自由時間を設けて頂きましたので、それぞれこの土地の波動を存分に自分なりに受けたことと思えます。

現地でのUFOの目撃に関しては何人かがそれぞれ体験しているようですが、印象的だったのは、コンタクト地点での恒例の全員記念撮影時に先生ご自身が西の方角に発見されたUFOを目撃できたことです。

最後のUFO出現

さて、この日最後の見学として、アダムスキーの著書中の写真で「馬の鞍」と呼ばれる山の稜線の説明を聞き終えて、パーカー街道に駐車していたバスへ戻る途中でのことです。これは四時三十分頃のことでした。列の最後にはいた私、小原さん、会田さんの三人は名残り惜しそうに何度もふりむいて山々を見つめていましたが、このときふと私は「黎明会ではテレパシーコールの後には、スペーススピーブルの方々にお礼をするんだよ」と言っ、いつものように帽子を取ってヒョイと頭を下げました。

すると二人も私をまねてコンタクト地点の方向に一礼をして見上げたその瞬間に、まるでタイミングを計ったかのように白い円盤型UFOが出現したのです！

私は双眼鏡で確認したのですが、先

端部分が少しとがったように見え、船体の全体がツルツとした滑らかな感じで、全体が乳白色であることが確認できました。このときすぐ近くに三島氏もいて、自分では肉眼で確認出来なかったのにもかかわらず見事に撮影に成功しています。また津田氏、城さんの二人も偶然ふりむいた時に出現していたのを目撃していたそうです。

この最後の最後にニクイ演出をして絶妙なタイミングで出現して下さった円盤さんとスペーススピーブルの方々にもう一度お礼がしたくなるような嬉しい新年のプレゼントを受けて「そうだ、われわれはあの人達といつもいつも一緒なのだ！」という強い確信を得るに至りました。

異星人の援助はすべて平等

さて、この報告を終えるにあたって最後にぜひとも読者の方々にご紹介させて頂きたいのは、この日の夜に宿舎で行なわれた「久保田先生との質疑応答会」の最後にお答え頂いたスペーススピーブルの地球人に対する真の援助についての回答で、先生は以下のように語られました。

「これは秋山眞人氏も言っておられることだが、スペーススピーブルはアダムスキーを信じている人間だけを援助しているのではないんだ。アダムスキー問題を信じない人や妨害する人間も宇

宙の創造主の子であるからこれらを平等に尊重しているんだ。大体にスペーススピーブルの本当の援助というのは、地球全体が早く太陽系の仲間入りが出るようなレベルに上がってほしいという意味で援助しておられるのであって、個人というよりもむしろ地球社会全体の援助をしておられるんです」

この夜の質疑応答により、ツアー中にたびたび目撃したUFO群、そしてきつと乗っておられたであろうスペーススピーブルの方々が何を言わんとしていたのかという疑問に対する解答が、今まさに先生を通じて与えられたような気がしてなりませんでした。

私はきつと忘れないでしょう。久保田先生やロス氏や皆さんと共に心はずませながら母なる大地を走り抜けたこと、人々の疑惑をよそに出現し続ける宇宙船の輝き、そして丘の上でテレパシーで呼びかけたあの瞬間を。今はすべてを分かち合えなくても、ここで紹介させて頂いた円盤の写真やメンバーの報告によって、さらに多くの方々がこの問題に関心を持たれることを、今回のUFO出現という祝福が等しくGAP会員の皆様の頭上にもたらされることを、そしてこの永遠なるGAP活動の励みになることを祈念致します報告のペンをおきます。

(筆者は日本GAP本部役員幹事。国内でもひんぱんにUFOを目撃する特殊な宿命を持つ人)

★木多見昌弘

先頃はアメリカへの研修旅行に参加させて頂きましてまことに有難うございました。私には入会以来、始めての研修旅行となりました。

実は南カリフォルニアの大地を踏むのは一二年ぶりだったので、当時の私はアダムスキー氏のことなどはすっかり忘れて、ただただ好奇心のみの滞在でしたので、今回の訪問での愉快な中にも身の引き締まるような気持ちと比べてみると、何かしら不思議な感慨を抱いております。

パームスプリングズでの目撃

さて、今回最初のUFO目撃となりました二日目の朝、パームスプリングズでのUFOの出現は次のようでした。加藤さんの声で見上げると、宿舎の上空に丸くて黒い物体が風の向きとは反対方向にゆつくりと浮遊していました。私は肉眼で見えておりましたが、中心部がオレンジ色になったり下側に突起のようなものが見えたりして、やがて上空に昇って行くにつれて全体が銀色に変化していきました。

その様子は一見風船のようでもありましたが、物体が見えなくなった直後に、反対側の山の方にあきらかにそれ

と分かる風船が風の方向に流れて行きましたので、きつと両者を比較できるようなタイミングで目撃させて頂けたのだと思います。私はスキヤニングデイスクだろうと思っていました。後の秋山先生の写真鑑定では有人タイプだということだったので感激もひとしおでした。

その出現に励まされて向かったデザートセンターでは、写真では何度も見させて頂いていた場所ですが、実際に自分の足で歩いてみて初めてその立体的な構造が理解できるとともに、コンタクト地点で大宇宙思念法をご指導頂いたこともあり、力強くも暖かいフィリングに包まれるのを感じました。また大地の果てから頬をなでるように流れてくる風には、いったい何年ぶりに感じる心地よさだろうかと思うほどでした。

銀色の光体に感動

現地では四回の光体出現があり、私は三度目撃させて頂きましたが、特に「馬の鞍」と呼ばれる地点に着陸した円盤をアダムスキー氏が撮影した場所を見るために全員が移動したとき出現した銀色に光り輝く光体には、私にとってはまさにこのためにはるばるやって来たのだと思えるほど感謝感激しました。

私が撮った幾枚かのUFO写真(光

体自体はあまり写っていませんでしたが)をある会員の方に見て頂いたところ、次のようなフィリングを感じると言つて頂けました。

「私達はあなたの方のことを心から応援していますよ」

三日目のパロマーガーデンズは静かで暖かく、ここは本当にアメリカなのだろうかと思うほど懐かしい空気を感しました。そこに生い茂る檜の木々を見上げると、彼らはアダムスキー氏を覚えていたのだろうか、ふと聞いてみたい気持ちにもなりました。

今回の旅行では久保田先生の懇切丁寧なご案内とご説明を随所でお聞きすることができ、また黎明会の方々の献身的な努力に助けられました。充実したレッスンを学べましたことを日本に戻つてから日がたつにつれて深く感じます。有難うございました。

(筆者は京大工学部出の宇宙開発科学技術者)

緊縮のついでに

★三島孝博

今回のアメリカツアーでは久保田先生に現地での解説等、じきじきにご指導をしていただき、本当に感謝しております。またグニエル・ロス氏には現地の貴重な情報を沢山与えて頂き、本当に有難うございました。

旅行中は参加メンバーの目的意識が

一つにまとまっていたせいか、終始とても楽しいフィリングに満たされて旅をすることが出来ました。一生忘れ得ぬ素晴らしい思い出になりそうです。今回の旅行ではなんといいってもデザートセンターでの調査を行なう日の出来事が驚異的でした。朝、宿をとつていたパームスプリングズの宿舎を出発する際、我々のほば真上に黒っぽいUFOが出現しました。その形は明らかに円盤状しており、色は逆行のためもあると思われませんが、黒っぽい色でした。周囲の雲が一樣に流れて行く中、その物体はほとんど静止していました。五分以上かけて、雲の流れる向きとは違う東向きの方へゆつくりと移動、いつのまにか見えなくなりました。

その後、緊張感とともにデザートセンターに到着した我々は素晴らしい体験をしました。それはアダムスキー氏のコンタクト地点での久保田先生による検証撮影の終了後、皆で記念撮影をしている時の出来事でした。先生みずから「あれは何だ?」とUFOらしき物体を見つけれ、皆でその物体を確認しました。明らかに飛行機とは違う動きをする光り輝くUFOのタイミン

グのよい出現はまさに「そこはアダムスキー氏の真実のコンタクト地点ですよ!」とスペースブラザーズが我々に語りかけてくるような様相でした。その後、スカウトシップ着陸地点のある小高い丘に九名ほどで登り、テレ

パシーでUFOへの呼びかけを行なったときと、円盤着陸地点(通称「馬の鞍」)の確認を行なった後にも、不思議な光体が出現しました。

夕方、デザートセンターでの調査を終えて、帰路につくためにバスに向かう途中にも、不思議な光体が出現しました。加藤氏をはじめとする数名で、パーカー街道へ戻る途中、「本日はどうもありがとうございました!」と心の中で思っていると、突然その物体が出現したのです。その出現のタイミン

グというのは、本当に我々の気持ちまでとらえてくれているんだなと確信できるようなものでした。あいにく私は目があまり良くないせいか、その場では自分の目でその物体を確認できなかったのですが、幸運にもそのとき二〇〇ミリの望遠レンズ付きカメラで急いで撮影した三コマの写真にその物体をとらえることができました。それは白色の円盤状物体で、だんだんと色が薄く変化する様子も確認できます。

ここでまとめとして今回の調査旅行で私が感じたことを述べて頂きます。

「我々の行動とタイミン

もちろん今回旅行をした我々だけでなく、全人類へ『アダムスキーの体験は真実です!』というメッセージをスペースブラザーズが伝えてくれて、いろいろな気がしてならない。そして『早く宇宙哲学をマスターしなさい!』と激励してくださいるのである。

最後にスペースブラザーズ様へのメッセージにて本報告を終えます。

「素晴らしい体験をさせていただき、本当に有難うございました」(筆者は物理専門の理学博士)

UFOを語る

★岡田 茂

久保田先生と共にアダムスキーの大地に再び立つことができる! そう思うと私の心はこのツアーの企画が持ち上がった約一年前も前から、もうすでにワクワクしっぱなしでした。

私にとって今回のデザートセンター行きは二度目となり、海外旅行は三度目となります。そして非常に幸運にも、そのすべてが久保田先生とご一緒させて頂き、お世話になった旅行でした。

今回のツアーもブラザーズの祝福と久保田先生の暖かい宇宙的波動と共に私にとって決して忘れることのできない素晴らしい旅行となりました。他の参加者の方々もそれぞれ重要な意味をもつ旅行だったと思います。

ツアー出発前にはツアーマネージャ

ーである加藤氏の自宅で旅行メンバー全員が集まって、親睦会をかねた打合せを行いました。通訳をイギリス留学経験者の高橋美貴子さん、ビデオ撮影を三島さん、写真撮影を西川さんなどそれぞれ役割を決めて万全の態勢でのぞむことにしました。

英語の重要性を痛感

今回の旅行を通じて感じたことが二つあります。その一つは英語です。二一世紀のまっただなかを生きるだろうと思う私にとって英語は死活問題です。国と国という概念が薄まり、世界中の交流が深まって英語が世界語になっていくなかで、私にとって英語は必要不可欠な酸素のようなのだと痛感しました。旅行中、久保田先生がダニエル・ロス氏やバスの運転手のジョシユバさんなどと英語で楽しく談笑しておられるお姿を拝見して、頭をがち割られたようなショックを受けたように感じます。

また久保田先生が個人的に毎月発行されているエッセイ『意識の声』の一月号にも英語上達法について書かれています。そのなかで、「自分の中に英語で発言することのできる英語圏独立国を作ること」を読んで、私も貧弱ながらこの独立国を建設し、いつの日か久保田先生と英語で談笑している自分をイメージしながら勉強していま

す。

次に二つ目は「日本GAPの重要性」です。今回のツアーでパームスプリングズに滞在中にホテルの一室で、久保田先生との質疑応答会が開催されました。そのときダニエル・ロス氏も同席しておられましたが、久保田先生のまわりに座った私達が質問をし、先生が答えているその光景は日本語のやりとりにもかかわらず、ロス氏はじっと見つめて、どことなく羨ましそうな表情を見せていました。でも私がそう感じたのはあながち間違いでもなかったと思います。

というのは、現在アダムスキー問題を日本GAPほどに活発に展開している国は世界にないからです。A氏の著作は先生の翻訳ですべて読むことができますし、毎月の月例セミナー、専門誌「UFO contactee」の発行等で最新の情報が得られます。またGAPの主催で海外研修旅行にも行けます。これらを考えれば、私が日本GAPの会員として今ある環境がどんなに素晴らしいことか、どんなに恵まれているかということ、世界の状況を見るにつけあらためて強く感じます。

久保田先生がアダムスキー氏の要請により、一九六一年に日本GAPを設立されて、「日本の青少年少女達に宇宙的な夢と希望を与えることができた」という思いで活動を続けられ、今年で三六周年を迎えられたとお聞きし

ました。私はそのおかげで宇宙的な夢と希望を持つことができ、充実した楽しい毎日を送っています。そして今回の旅行にも参加させて頂き、多大な学習をすることができました。今年もイスラエル研修旅行に参加する予定です。こうして日本GAPで学んでおります宇宙哲学と豊かな常識ある態度を日常生活にフルに生かして楽しく頑張っていきたいと思っております。久保田先生、どうぞこれからもよろしくお願い致します。

パームスプリングズのUFO撮影成功

★西川 太

今回二度目のデザートセンター訪問となったアメリカの旅でしたが、大変充実した良い旅行となりました。撮影係として写真撮影に専念することができたのがパームスプリングズでの重要なUFO撮影に成功した一因であると思っております。これはひとえに参加メンバーの皆様方のご協力のおかげで、大変感謝する次第です。

デザートセンターへの出発集合時刻の一五分程前に加藤さんから「あれ、何に見える？」と聞かれて空を見上げました。

すると黒っぽい球体が浮かんでいるのがかすかに見えたのですが、自分には風船のようにしか見えませんでした。

▶デザートセンターに一軒だけあるレストラン。昔アダムスキーもここへ立ち寄った。



▶パロマー山へ登る途中の峠の展望台。遠方はパームスプリングスの町。



▶パームスプリングズの高級レストラン「ライオンズ」で晩餐会。中央奥はロス氏。



撮影／西川 太（左の写真も）

そこで急いでカメラに望遠レンズを付け替えてファインダーを覗いたのですが、円盤のようでもあり風船のようでもあり、確信がもてないまま、とりあえずシャッターを切りました。

帰国後、現像済みのスライドをループで拡大して見たところ、銀色の金属質の真円型の物体が写り込んでいたの

で、撮影時に受けた印象とは大変違っていました（写真は三頁に掲載）。

デザートセンターでのひときは非常に心地の良いものでした。そこは何もない荒地のようにしか見えませんが、明らかに何か次元の違う「力」のようなものが存在しているのが感じられます。それはコンタクトがあったからそうした場になったのか、もともとそういう所だからコンタクトがあった

▼レストラン「ライオンズ」で談笑する久保田八郎会長とロス氏。



たのかはよく分かりません。

パロマー天文台は霧のため行けなかったのは残念でしたが、アダムスキーの足跡をうかがい知ることのできた旅でした。

最後になりましたが、旅行中に解説をして頂いた久保田先生と、途中で合流したダニエル・ロス氏に深く感謝いたします。

意義深い質疑応答会

★大根田匡史

今回の旅行は日数は短めでしたが、その分、実に内容的に濃いものだったと思います。三年前の九四年に第一回の黎明会主催のデザートセンター旅行を行ないましたが、メンバー同士の心のつながりや意識の高さなどは、その時とは大きく違っており、日本GAPとして久保田先生を中心として、信念を持ち、新たな活動を展開させて行くこれからの姿を見たような気がしました。

このことは私の個人的な意見ですが、パームスプリングズまたはデザートセンターでのたび重なる円盤の出現により、ある意味で日本GAPをご援助して下さっているブラザーズの方々にも、そうした参加メンバーの意識の高さを立証して頂いたように思います。

この旅行はこうした集団活動の際に一体化のフィーリング・和合心といっ

たものが、どれほど大切で暖かいフィーリングを持つかということ、これまで参加したGAP関連の旅行の中でも特に感じるものが出来た貴重なものでした。

また今回は研修的な面も備えていたことで、「久保田先生との質疑応答会E' USA」では、アダムスキー氏とオーソン氏のコンタクトに関して、また日頃疑問に思っていることなどへの先生のレクチャーを受けることが出来ましたが、特に心に残ったのはブラザーズの方々の援助の姿勢に関する質問の回答です。それは久保田先生ご自身の体験からスペースブラザーズの援助とはどのようなものなのか、また私達はそれに対してどのような心構えを持つべきなのかを教えてください、私自身、本部役員としての心構えを新たにしたいです。先生の回答は次のとおりです。

- 彼らは地球人に対して絶対に平等であること。
- 地球全体の向上を望んでいること。
- みずから努力する者を導いて下さること。
- 大宇宙思念法の重要性。

この回答では以上の四つを今まで理解した「つもり」でいたことに気づかれました。

私は今回の旅行中に体験した様々な感覚、参加メンバーとの一体化の暖かいフィーリング、デザートセンターでの雄大なフィーリング、「久保田先生

との質疑応答会」での新鮮なフィーリング、そしてスペースブラザーズの偉大なフィーリング・・・これらを決して忘れることはないだろうと思います。

たのしい瞬間の記録

★福井貴子

個人的には幸運にも憧れの地「デザートセンター」へ今回で三度目の訪問となり、久しぶりに故郷にもどってきたような気持ちになりました。山並みやコンタクト地点の変わらない様子が安心致しました。

一九九七年一月一日、この日は忘れることのできない一日となりました。皆さんと一緒に何度もスカウトシツプや光体を目撃した日であるからです。

まずパームスプリングズの宿舎の中庭の集合場所に数名で待っていた時、加藤さんの一言で青く晴れた空を見ると、大きな白い雲をバックに黒っぽいものが浮かんでいました。飛行機でもなく鳥でもないようでした。双眼鏡を出そうとカバンから取り出しているうちに見えなくなりましたが、他の方々が確認されたところではUFOだったようです。

デザートセンターのコンタクト地点で先生のご説明の後、一同で記念写真を撮影していた時、先生の一言で空を見上げると、白っぽい物が雲と雲との間の空に存在していました。しかし私

はあつというまに見失ってしまいました。確かに私達を見守って下さっていることを確信できました。

その後、ダニエル・ロス氏と高橋美貴子さんと共に「馬の鞍」をア氏が撮った写真のポイントを探していたとき(午後三時台)、銀色に光る物体を山々のライン上に見かけましたが、双眼鏡で確認しようとして目を離した瞬間に消えてしまいました。

その後、「馬の鞍」を全員で見ている途中、肉眼で見ても光り輝く物体が現われて、私達を激励してくれているように見えました。そのあと引き揚げる途中も皆さんは目撃されたようです。年の始めからこんなに素晴らしい体験ができましたことを大変感謝しております。

懐かしい瞬間の記録

★会田裕子

私にとっては初めての海外旅行がデザートセンターだったのは、とてもラッキーだったと思います。そして何よりも全員でたびたびUFOを見るものが出来たのは、この旅行の一番の成果ではないでしょうか。

最初の目撃は一月一日の朝、パームスプリングズの宿舎前の集合場所です。皆が空を見上げてUFOらしいと騒ぐので、目を追うと、薄曇りの空に黒いバルーンのような物が見えました。正

直言つて心の中で「まさか、UFOじゃないだろう」と疑っていて、双眼鏡を持参していたにもかかわらず、なぜか使う気にならず、肉眼で見えていました。

帰国後、この写真を秋山真人博士が鑑定された結果、本物のUFOだと言っていて非常に驚きました。

いよいよ憧れのデザートセンターへ行ってからの風景は、何度も本誌で見た青い空と砂漠の見事なコントラストそのままでした。そのときから不思議なフイーリングが起こり、必ず出現して下さるといふ確信が出てきたのです。それは現実となりました。

長い一日の見学と散策が終わって皆でバスの方へ帰ろうとしていた時、加藤さんがプラザーズにお礼を言おうとしてくるりと振り返り、「ありがとうございます」と言ったときです。私も小原さんと一緒に振り返りました。すると真っ青な空に銀色の丸い物体がキラッと光るではありませんか！

双眼鏡のピントが合わなくて少し慌てましたが、肉眼で数秒間見ることが出来ました。

不思議なことにUFOを共に見た人とは以前よりも親しみやつながりを感じるのです。特に今回の旅行のメンバー全員とは、最初から最後までまるでいつも一緒にいるような一体感に包まれていました。やはり調和というものが重要ですね。

もう一つ素晴らしいのは久保田先生です。七二歳という年齢を全く感じさせない青年のようなパワフルな行動に皆で驚きました。先生の長年のGAP活動における情熱をかいま見た気が致します。今回の旅行ではいろいろとありがたうございました。

★城 真美子

私が旅行の一カ月前に実行したことは、アダムスキー全集の全巻と久保田先生の著書三冊に目を通すことでした。これは旅行参加が決まった時点で絶対に必要なことだと強く感じたためです。旅行中の楽しい思い出をあげると際限がないのですが、特に忘れられないのは現地で元旦の日に起こりました。

朝、宿舎の前でくつろいでいたとき、八時五〇分頃、驚いたことにちょうど真上に赤黒い物体が滞空しているのです。肉眼でも確認できました。しかしこの付近では昨夜、新年の祝いで沢山の風船が飛ばされていたので慎重に確認する必要があります。双眼鏡で確認した一人に聞くと、それは球体ではなくて、皿のように平らで、銀色に光っていたということです。また私達はその後黄色い風船が風に流されていく光景を見ましたが明らかに動き方が違うので比較することが出来ませんでした。この瞬間、私はまぎれもなくスカウ

トシップ（別な惑星の探査用円盤）を目撃したのだと確信しました。実は私にとつてこれが初めてのUFO目撃であり、しかもかなり間近で、かなり長い時間、観察できたことは幸運でした。デザートセンターでは午後の時間、ゆつくりと素晴らしい風景の中を過ごし、四時過ぎに全員で引き返す途中、もう一度風景を見ようと振り返ったとき、一点の白く光る物体が上空に浮かんでいるのを発見したのです。

翌日、パロマーガーデンズでは天候に恵まれませんでしたが、バスの運転手のジョシュバさんが、昨日コロラド州で別な惑星の母船が出現したニュースをCNN放送が流していたと語ってくれたのが印象的でした。今までに経験したことのない素敵な旅行でした。同行の皆さんには大変お世話様になりました。まして厚くお礼を申し上げます。

★岡田 茂 (追記)

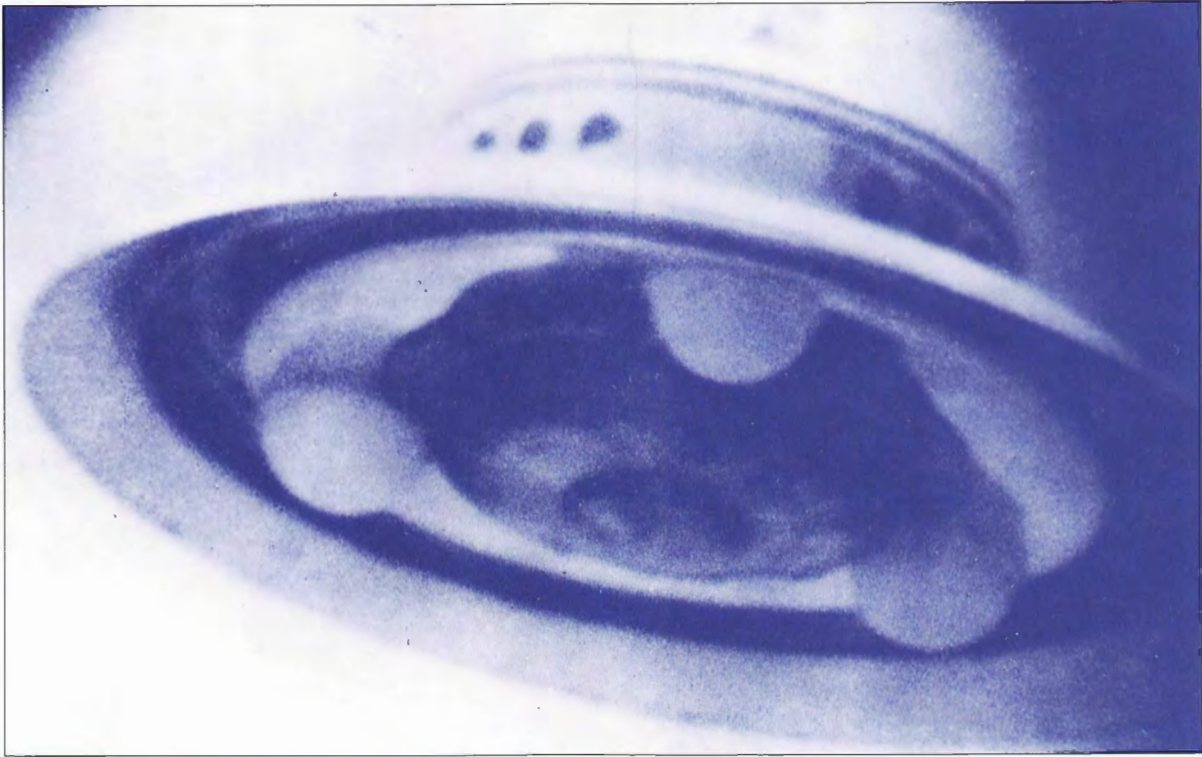
一月一日の朝、津田氏とともに宿舎の部屋にいた私は出発の準備をしていましたが、部屋のカーテンをあげなければと思い、カーテンを開いて外を見ると、加藤さんがすでに空を見上げていました。円盤が出たんだ！と思い、急いで津田氏を呼び、ベランダに出て双眼鏡で観測しました。それはお皿のような形で、少し厚み

が感じられました。物体の表面に三個所の丸い突起物が観測できました。物体は銀色に見えたり白銀に見えたり黒く見えたりしていました。

三角形に並んだ突起は物体の表面と同じ銀色でした。



① 右下の一部分が日光の反射によってが白っぽく輝いていました。



▲1952年12月13日午前9時10分頃、米カリフォルニア州パロマー山のパロマーガーデンズ台地で、ジョージ・アダムスキーが6インチ反射望遠鏡にイハゲードレスデン手札判カメラを装着して撮影した金星の円盤（英語ではスカウトシップという）。直径約10メートルのこの観測機は大母船に積載されて飛来し、地球上空で発射される2～3人乗りの小型機。この写真を撮影したときには、アダムスキーの頭上に来てネガホルダーを投下した。このネガホルダーは前月の11月20日にデザートセンターの砂漠地帯で金星人と会見したときに、相手の要請に応じてアダムスキーが貸したもので、それを返却に来たのである。このネガを現像してアダムスキーは驚いた。そこには不思議な図形が多く描かれていたからである。その後の研究により、この図形類は金星の大母船や円盤の推進原理を表わした超高度な理論であることが判明した。後に南アフリカのバシル・バンテンバーグがこれを解読して電磁気応用の重力場推進原理を発表したけれども謎の失踪をとげた。しかし日本GAP本部役員の遠藤昭則氏がこれを解読して電磁気応用の推進原理をつきとめており、その記事は本誌にたびたび発表された。

◎日本GAP



◀パロマー山腹のパロマーガーデンズ（この場所名はアダムスキーが名づけた）台地で、6インチ反射望遠鏡をのぞくアダムスキー。この望遠鏡は友人であったパロマー天文台職員のジョンソン博士の母堂でアダムスキーの弟子であった女性が贈ったもの。木製の手札判カメラが取り付けられている。この台地は現在、オウク・ノル・キャンプグラウンドと呼ばれて、車で天文台を見学に来る人達のキャンプ地になっている。

◎日本GAP

自宅のすぐ近くへ、超高空で舞い降りたアダムスキー型空飛ぶ円盤を目撃した日本GAP会員男性の迫真の手記！

車で事故を起こす

私は何度もUFOを目撃しましたが、一番最初に見たのから数えて二六機目と二七機目についてお話をしたいと思います。

平成四年の一月の始め頃、私は車で家を出まして、北に向かつて走って行きました。ちょっと複雑な話があるのですが、その当時、一つの大きな事件がありました、それが原因で単独事故を起こしたんです。それには異星人の方々も私のことを心配して、いつも上空から見つめて下さっているんですが、特に私の命が危険だと知ったから、単独事故を起こしたんです。それはアイスパーンでスリッパしたのです。

秋田の北へたどり着いたのは、たぶん一月の中頃だと思います。ドライブ

をつづけていますと、前方に軽四輪のトラックとパンの車が走っているのが見えました。

それで私はちょっと何かおかしいなという感じがしたのですが、そのまま走り続けていましたところ、急に左へハンドルを切りかえたとどういいうか、瞬間的にハンドルを切っていたんです。

すると衝石がありました、その衝石を乗り越えまして、前輪が向こう側へ入ってしまったのです。それで私は急いでバックにギヤを入れて、今度は思いきりアクセルを踏んだわけです。

衝石の高さは二センチぐらいありますので、普通の車でゆっくりバックしたのでは出られませんから、思いきりアクセルを踏んで出たんです。

そして車を見ましたら、左側のフェンダーがタイヤに触れるほどにグシャツとつぶされたものですから、それを修理するのにどこか広い場所はないかなと思つて探していましたら、バスの停留所とか、ドライバー達が休憩をとる広い場所があったので、私は車を動かして、そこへ移動しまして、そこで修理をすることにしました。

それで私が金鋸でもってフェンダーを切り取つてタイヤから離さないとタイヤの方が切れてしまいますから、フェンダーの鋭くがった部分を金鋸で

切り取る作業をしていたんです。

巨大なUFOが出現

夜中の一二時頃だったと思うんですが、ふと目を空に向けましたら、そこに巨大な月型(月のような模様のあつた)UFOとでも言うのでしょうか、それがいました。私はそんなに驚いたという感じはしなくて、そのまま作業を続けました。

そうして、二〜三時間たつた頃でしょうか、ふとまた見上げましたら、またも月型(月のような模様のあつた)の丸い……もつと詳しく話しましょうか、色はイエロウよりも澄んだ黄土色でしょうか、そんな色をしていました。窓やくびれなどは全然見当たらず、ツルツとした物でした。見上げたときにUFOの扉が縦に内側に向かって開いていたんです。私はそこから何が出て来るのかなあと思ひながら、またも修理をつづけていたわけです。

男女の異星人？が来る

それでフェンダーを切り終わった頃に外車のオープンカーが来たんですが、車には寒いのに男性はブルースカイのセーターを着ており、女性はピンクのカーデイガンを着て男性の横に乗っていました。女性の方は全然言葉が発しなかつたのですが、男性の方が「何か

お手伝いすることがありますか」と、おっしゃったんです。

私はすぐに相手が異星人であることを確信しましたので、「別に手伝ってもらうことはありませんが、できることなら自動車の修理工を呼んで下さいませんか」と言つたら、「ああ、いいですよ」と、こころよい返事をされました、そのまま立ち去つたわけです。

修理工は実際には来なかつたんですが、私一人の修理で充分でしたから、修理を終えてから仮眠をすることもなく、他にも傷のついた所はないかという調べていました。

フェンダーは切り取りましたが、車体の凹みがありましたので、それを引っ張つてもらおうと思ひまして、トラックのドライバーが来たときに、チェーンを用いて車体の凹んだ部分を引っ張り出そうと思つて、エンジンルームをあけて、そこにチェーンを通して、引っ張つてもらふことにしたんです。

私がセンターギアを引きまして、ギアをバックに入れて、ブレーキを踏んで、ガツとこらえたわけです。

しかし引っ張り出すことは出来なくて、チェーンが途中で切れたんです。そんなことがありまして、運転手さんも「この車には乗らないほうがいいですよ」とか言われました。

でも私は修理工をやつていた頃にいるんな車に乗つたんです。ブレーキがきかない車とか、ほとんどの車を乗り

私は至近距離で アダムスキー型円盤を 見た

I Saw an Adamski-type UFO
at Very Close Range
by Nobuhiko Nakazato

中里信彦

こなしていました。

大抵の車はジャッキを一つしか積み込んでいないものですから、ジャッキが欲しいなと思っただけです。そうしたバスが通りかかるとして、停留所で停車したのです。広場の中にはいつて行きまして、そこへ停車したんです。それでバスの運転手さんに「ジャッキはないですか」と聞いたら、「ありませんよ」ということで、ジャッキを借りることにしたんです。ところが、バスは限られた時間を利用していますから、「いいよ、これはあげるよ」ということで、ジャッキをもらっちゃいました。それで修理を続けたわけです。

帰って行く宇宙船

そして明け方近くになりました、ふと目を宇宙船に向けたわけです。するとその宇宙船がタマゴの殻のような感じで、宇宙へ帰って行くその場面をちょうど見たわけです。それによりまして、じよじよに小さくなりながら月と同じような形に姿を変えていったという状態です。

それが本当の月と違うところは、明暗がはっきりしてしまっていて、地球の海と大陸みたいな感じなんです。私は直接地球を外から見たことはありませんが、テレビで地球人が造った宇宙船から地球を見た光景とか、写真とか、そんなものしか地球を見たことはありません。

どつちかというのと、月型というよりも地球型（地球の表面を見たような光景）と言うほうがいいような感じでした。

それを見ていますと、私は北へ向かっていますから、その物体は東の方へゆっくりゆっくり動きながら、バス停の所にある竹ヤブのかげに隠れるようにしてスーツと消えて行きました。それが平成四年の月型UFOを見た内容です。

金星の円盤が至近距離に来了！

もう一つの目撃体験は、久保田先生にお話ししたときは六カ月前でしたが、今から八カ月ぐらいい前でしょうか、私の賃貸マンションの五階ですが、私がかたままペランダ側のガラス戸をあけて降りたんです。

それでなにげなく窓の外を見た瞬間に、金星のスカウトシップを見ました。（編注：スカウトシップというのは、アダムスキー型小型円盤の英語名）しかも窓を通じて内部が素通しに見えるんです。異星人達は見えませんが、内部に雲みたいなものが湧いていて、パネルだとか人間達を隠していました。それで見えたのはベンチです。中心を取り囲むように置いてある曲がったベンチの一つが見えたのです。もう一つのベンチは、ほんのちよつと角の所が見えただけでした。

何の目的か自分でもよく分かりませんが、私はしょっちゅう空中に向かって「異星人の方々へ。聞こえますか？もし急ぎの用事がなければ、私の所へ現われて下さい」と年中、心の中でレパシーで言っているものから、それでもつて現われた確率は高いと思っています。

国道一六号線の上空を西千葉の方へゆっくりと動いて行くのですが、真ん丸でして、動いて行く方向は、私の体で言えば左から右へゆっくりと動いて行く方向の右側で、三日月の真つ赤な色になっていったんです。

最初に見たUFO

ついにながら一番最初に見たUFOについてお話ししておきたいと思っています。

一九七〇年の冬のことです。ある夜、眠れないので窓の戸をあけていたんです。そして私の家から五〇メートルの所を国道一六号線が前を通っていて、私の所から小さな市道を通って左の方が柏市になります。右はまつすぐ行けば千葉大学の方へ行きます。西千葉の方ですね。

そのときが最初の目撃だったのですが、ふとなにげなく国道の方を見ましたら、樹木の葉は全部下に落ちて、見通しがよくなって、国道がよく見えるんです。

何月だったか記憶が定かではありませんが、見た物ははっきり覚えていますが、その物体も満月のような色でした。

しかし私はそれが怖くて出て行かれました。その声もスピーカーのような声ではなくて、私の心に直接働きかけるテレパシーです。その声が私の心に直接働きかけました。しかし私は出て行かなかったんです。それが私が最初に目撃したUFOでした。

UFO、六時間の滞空！

もう少し詳しくお話ししたいことが二〜三ありますので、つけ加えます。

平成四年に見たときの物体の滞空時間は約六時間です。その時間中、頭上に滞空していました。八カ月ぐらいい前の目撃は、見た時間は何秒かよくわかりませんが、たぶん五秒間ぐらいいです。そして一番最初に見たUFOは、時間にして二〜三秒間です。

空中に不思議なサインが出現

加藤純一

頻繁にUFOを見る特殊人間の筆者は、今年一月アメリカより帰国以来、連続UFOを目撃。特にサインとして知られる奇妙な現象を見た。

スペースビープル来訪の夢

今年一月四日にデザートセンター旅行から帰国して以来、私の周辺では以前にもまして不思議な現象が相次いで発生しています。

本号の冒頭記事「UFO頻出のデザートセンター！」でもご報告させて頂いたとおり、個人的なUFOの目撃の他にも、帰国直後から夢の中でスペースビープルの方々やUFOがたびたび現われてくるようになりました。

なぜか昨年一年間は夢の中での交流が例年よりも少なく感じられ、大変寂しい思いをしていたのです。

しかし一月五日（帰国の翌日）の朝に、四人のスペースビープルがやってくる夢を見てからは、彼らの新しいアプローチが始まったことを予感させました。そしてその日のうちにUFOを目撃した事実は、私に大きな自信を芽生えさせました。

逆Uの字の予知夢が実現

一月一日には川崎市にて青空を飛翔するUFOを目撃し、撮影することができました。

つづく一月二日には通勤途中でUFOを目撃し、また同日の昼過ぎには写真にあるとおりのUFOの典型的なサインも出現しました。

このサイン雲に関しては久保田先生や秋山真人氏が言われるようにさまざまな形状がありますが、私が経験した限りでは、この写真のように、サインとしての形状がハッキリしており、また他の雲と比較しても、その形が一定時間崩れない、サイン自体が脈動している、または光っているなどの特徴があります。

後になつて手帳を調べてみましたところ、この目撃に関しては予知夢というべきメモを発見しました。それはこの目撃からちょうど一週間前の一月四日に見た夢で、その内容は次のとおりです。

「UFOが放つ光で作られた逆Uの字のサインが空中を動いている」

またこの日の夜八時頃に都内にあるG社の編集部へ打ち合わせのために立ち寄ったときには、実際にオレンジ色に光るUFOを目撃しました。

未来透視現象が発生

さて今回の撮影に関しては、UFOの目撃と同様に、強烈な印象が先立つてわき起こってきたことはいうまでもありませんが、私自身、大変驚いている事が一つあります。それは撮影の数分前に、突然額のあたりに円盤の映像がダイレクトに浮かびあがつて見えたからです。

イメージまたは空想にしてはあまりに鮮明で、しかも突然の出来事だったので少々戸惑いましたが（ただし歩行中の通常の風景は正常に見えており、不快感は全くありませんでした）、なおも駅の方へ歩いて行くと、今度は眼前の空中に写真のようなサインを見つけたという次第です。

じつは、このような目撃に至る特殊なプロセスに関しては、自分にとって重大な局面で何度か経験しておりまして、特にスペースビープルにテレパシィで個人的に強烈に呼びかけたりしたときとか、彼らが意図的に見せて下さるときには、このような映像が見えてくる場合があります。

ただし、いつもそうとは限りません。通常の出現や目撃に伴う感覚以外に映

像が見えてくることもあるのですから。黎明会メンバー達もUFOを見る

アメリカから帰国後の不思議な体験は私だけではなく、参加メンバーであった大根田君や岡田君らも目撃しており、特に二月一日には埼玉県の大宮市において、五分間にもわたって空中に滞空しているUFOを目撃したということでした。

このUFOは回転しているのか、船体の色が白と黒とに変化し、途中で見えなくなったり、また出現して同じパターンをくり返したということです。

埼玉県方面では四月に開催予定のUFO写真展や本誌の直販活動で、日本GAP本部役員をはじめ、黎明会のメンバーがボランティアとして精力的に活動を展開しています。

久保田先生はこれらの報告から、スペースビープルが祝福の意味で出現して下さったのだらうと言われ、これからも出現はつづくだろうとおっしゃっていました。

この目撃について、第一発見者の大根田君は「なんとなく上空が気になつて見上げたら、そこにUFOがいた」と証言していますが、スペースビープルの方々が発するテレパシィックな印象や波動を正確に受け取る方法についての最良のテキストは、アダムスキの書物、特に全集第二巻「超能力開発

法』や第三巻『生命の科学』の中に詳述してあります。

素晴らしい大阪支部の感覚 開発実践法

その実践についての重要性については、去る二月一六日に行なわれた大阪支部の月例セミナーに参加させて頂いた際に非常に強く感じましたし、また勉強にもなりました。

平塚代表の指導による宇宙の意識から来る印象の感受法についての重要性のお話は興味深く、出席者全員による透視実験やテレパシー実験は、いずれもアダムスキーの宇宙哲学をベースにしたものであり、この延長上で大阪の会員の方々は頻繁にUFOを目撃することができるといふということがよく理解できました。

また驚くべきは、今回の私の大阪行きは事前に現地に連絡もせず内密にしておりましたので、誰も知る人はいなかったはずなのですが、平塚代表、宇野副代表のほか数名の会員の方々が朝から「今日の月例セミナーには何か珍しいことがある」ということを印象で感じ取っておられたそうです！

ところで、支部の会場には宇宙の意識に関する六カ条から成る標語が貼られており、特に「宇宙の意識を完全に信頼しましょう」という文に感銘を受けました。

震災を乗り越えられた平塚代表をは

じめとする日本GAP会員の皆さんの精神的な支えやベースは、やはり宇宙の意識なのだ！ということ、あらためて感じる事ができました。

帰国後のこのような体験から、私にとってアダムスキー氏が説いたこの素晴らしい宇宙の法則に関する哲学を、もっと身近な喜びにしてゆけるように、UFOやスペースビープルの存在を今以上に感じ取れるように、今後も活動をつづけてゆきたいと思っています。

なお、空中のサインに関しては、三年前になりますが、久保田先生、前本部役員の田中淳氏と私の三人でデザートセンターとメキシコのティファナへ旅行したときにも、ティファナで逆Uの字のサインが現われて撮影したことがあります。これは本誌一二五号五頁に掲載されています。

(編注)宇宙の意識というのはアダムスキーの造語で宇宙の創造主または神ともいうべき意味。アダムスキーによれば人体を生かす宇宙の意識からマインド(心)に由来する印象を感受する力を開発すればテレパシーや遠隔透視その他の超常能力を開発できるが、地球人はこの理論を知らず分裂したマインドだけで生きているために一寸先は闇という盲目状態にあるという。しかし偉大なスペースビープルはこの超常能力の凄い力を持っている。詳細は新アダムスキー全集第二巻『超能力開発法』と第三巻『生命の科学』に解説)

▲本年1月21日、都内の某所で筆者が撮影した奇妙なサイン雲。

筆者・橋本氏はアメリカ・ボストン在住の音楽家。トランペットの名奏者でジャズからクラシックまでこなし、一流バンドと共演して活躍しているが、日本GAPの熱意ある会員でもある。

①お元気でしようか。アダムスキー全集や本誌を通じて久保田先生に、アダムスキーに、全宇宙に感謝しています。とにかく先生やその他の日本GAPの会員の人達には、もう何度も会ったことがあるような気がしてなりません。

ときどき友達とアダムスキー哲学やUFOのことを語り合うようになりまして、そのうちの高橋大(まさる)君(ギター奏者)という人がアダムスキー全集全一(一巻を注文したいと言ってきました)ので、よろしくお願いいたします(僕のアダムスキーの本を借りて読むうちに彼も欲しくなったのです)。ときどき友人達にアダムスキー全集を紹介したりして、なかには一頁も読まない人から高橋君のように「これは本物中の本物だ!」と言って、もっと深く入ってゆく人までまちまちですが、少しでも宇宙の真理を求める人がふえてくれることを願っています。

橋本恵一

②早速ご返事と書籍類を送って頂いて有難うございました。近くの郵便局へ高橋君と二人で大喜びして本を受け取りに行きました。二日間ほど本を読みふけておりました。

アメリカ暮らしも七年目になります。が、いつも人種差別、社会問題、宗教間の争いに直面していきまして、四年ほど前ですが、アメリカ暮らしに疑問を持ち始めて、一生をどのようにとご過ごしたのかと思悩んでいたところ、ふとしたことで日本に帰った友人がアダムスキー全集のうちの第四巻をくねまして、そういえば子供の頃にUFOを見たなあと思いがら本を読みだすとともに大変な興奮を覚えて「これぞ真実で我々が学ぶべきこと」と直感して、アメリカを訪れようとしている日本の友人に頼んで全集を買ってきてもらって以来、どれだけこれらの書物に助けられたかわかりません。

その後、音楽を通して世界平和、人類愛、宇宙的なカルマを少しでも表現できるようにになりたいと思うようになりました。それから特に意識して、ありとあらゆる音楽に参加するようにして、ローカルのグループを中心に、クラシック、ジャズ、R&B等、何でも

やります。今現在はアメリカのトップ四〇バンド、ブラジリアン、デキシードバンド、ジャズ、フリージャズ、アフリカグループ、ブルースバンドが主な活動で、今はまだ自分自身の音楽を表現するというよりは、いろいろなことに参加してエネルギーを吸収している段階で、ソウルではアレサ・フランクリン、ジャズではクラーク・テリー等の共演者が日本では知られている人達です。久保田先生の音楽のお話を手紙でうかがって本当にオドロキました。というのは、ほとんどが自分に関係のあることばかりなのです(中略)。

アダムスキー哲学はすごい光を放っています。ユーコン誌一三四号の一九頁の記事が一九五〇年代に書かれたものだなんて本当に信じられません。いつも世界の最新情報に接している気になります。やはり本物は常に本物で、隠されていても自然に上に出てくる力があるのを感じます。

この前、イブラヒマ・カマラというアフリカンドラムのマスターと話したときにも、彼が言うには「本物は愛と尊敬と規律に支えられている」と言っていました。音楽についても同じだと思います。いつか本当にアダムスキーが全世界に知られるのも時間の問題という気がします。今再度久保田先生の啓蒙活動に感謝致します。本当にいつかお会いできたらと楽しみにしています。

③新年明けましておめでとうございます。このたびの会費のお取り計らいを誠に有難うございました。高橋君と共に喜んでいきます。今回一三五号ユーコン誌の乙氏の記事には感嘆してしまいました。このような体験をしている人がいるなんて本当に嬉しくなっています。これから同様のコンタクトが増えて世界中の人々が真実に直面できることをすこく期待しています。

(編注II筆者からはその後、アメリカの一流バンドとの共演を録音したカセットテープ二本が送られてきたが、いずれも素晴らしい演奏であった)

ユーコン誌に僕の音楽活動が載るなんて少し恥ずかしい気もしますが、ほとんど嬉しい気持ちです。アレサとクラークとの共演は、両方共一九九三年で、当時、ジョセフ・マーフィー博士の本などに会って「心に強く思い描くことは必ず実現する」ということを信じ始めて、同じ頃、アダムスキー全集の「UFO問答集」に出会いました。アレサの仕事の電話があったときには彼女のテープを聴いていまして、そのバンドで吹いているところを想像していました。クラーク・テリーはジャズがどうい音楽か知らなかった頃からファンでしたので言うまでもありません。それは黄金の音でした。

(編注IIアレサ・フランクリンはアメリカのソウル音楽の超一流黒人歌手。「愛のフリーウェイ」愛のおとずれ)

アダムスキーは本物中の本物

Admski's Story is Absolutely True
by Keiichi Hashimoto

等は大ヒット曲。クラーク・テリーは
名高いジャズトランペット奏者)
お送りした演奏テープはデツキの調
子が良くなかったので録音の出来は今
一步ですが、アイデアを受け取って頂
ければ幸いです。日本GAPの会員の
皆様方によりしくお伝え下さい。

(編注)筆者は大阪府の出身。小学生
の頃、交野小学校の校庭で野球の練習
中に数機のUFOを仲間と一緒に目撃
しており、その詳細は本誌一二六号に
掲載されている。アダムスキー哲学の
実践者で、特にイメージ法を応用して
願望をよく実現させている)



▲橋本恵一氏。

■日本GAPテレビ出演■

GAP-Japan Featured on TV

日本GAP本部の久保田八郎会長ほか役員、会員
数名は、デジタル衛星放送パーフェクトTVの「モ
ンド21」に出演。去る1月24日に放映され、極め
てまじめな番組として好評を博した。中列の下は
講演中の久保田八郎会長。右列の上からUFOの
推進原理を説明する遠藤昭則本部役員、加藤純一
本部役員、会員長老の清水南氏。左列の上は役員
の会田裕子、城真美子。



★東京月例セミナー盛況

東京本部が(原則として)毎月第一日曜日に開催するセミナーは盛況を呈している。毎回久保田会長がアダムスキの宇宙哲学とUFO問題について講演を行なうほか、会員の講演、レクチャー開発練習、UFOビデオ映写、質疑応答等、盛り沢山のプログラムで午後一時より五時まで開催。会場は都内港区東京タワー前の機械振興会館六階六七号室。

今年四月よりはテキストなしで会長独自の公開講演を行なう予定であったが、やはりアダムスキの基調を保つために一応テキストとして新アダムスキ「全集第七巻」「二世紀の宇宙哲学」を解説し、同時に会長独自のバラエティーに富んだ話題を展開する。またビデオ映写も迫力あるものを選択映写する。入場は日本GAP会員でなくても可能。詳細については巻末の月例セミナー案内を参照。

★フランスへUFOビデオ提供

先般フランス・パリーの有名テレビ局が世界のUFO問題を取り上げる企画のため、日本GAPにUFOを撮影したビデオの提供要請があったので、日本GAPは数年前総会翌日の観光で都内浅草で撮影されたUFO、江戸川区の久保田会長宅から撮影されたUFO、九五年九月に会長がワシントン市のアダムスキー大会で講演を行なった翌日、同行した黎明会メンバーがニュ

ーヨークで撮影したUFO、今年一月一日、カリフォルニア州のデザートセンターへ行った黎明会が宿舎のパームスプリングズで撮影したUFO等を収録したビデオをフランス人日本GAP会員M・シルガー氏経由で発送した。

★日本GAP、パーフェクトTVに出演
去る一月二四日に放映されたデジタル衛星放送パーフェクトTVの「モンド21」と題する番組に、日本GAPの久保田会長と数名の幹部が出演。会長のアダムスキー問題に関する講演、遠藤本部役員によるUFOの推進方式の研究開発、加藤本部役員幹事によるUFO写真展会場における説明、その他女性会員に対する取材等、非常にまじめな番組として大好評を博した。まるでNHK3チャンネルの教育番組のような真剣な内容だったと評されている。これはプロダクション「アマゾン」の堀田ダイレクターが取材編集したもの。

★またもUFO写真展を開催

昨年一二月末から二週間、都内池袋のパルコで日本GAPは写真展を開催して大好評を博したが、またも今年四月二日から八日まで今度は埼玉県川越市の「県民ミニギャラリー川越」で開催した。結果は本号編集までに間に合わなかったが盛況であったと思われる。

★第一回福山支部大会開催

福山支部は発足一年半にして今年五月二五日に広島県福山市で第一回大会を開催する。これは同支部代表の梶田

雅則氏と熱心な支部会員が結束して実現にこぎつけたもので、盛大な大会が予想される。詳細予告は本誌四七頁に掲載されている。東京からはGAP内の支援グループ黎明会のメンバー約一〇名が会長に同行し、大阪支部からも平塚代表以下約一〇名が参加の予定という。盛況が期待される。

★日本GAP海外研修旅行を再開

日本GAPは過去約二〇年間、毎年海外研修旅行を実施していたが、今年も一月に再開する。先号の本欄には一週間となっていたが、イスラエル行きはこれが最後になるので一日増やして八日間に変更。主としてイエス関係の遺跡を徹底的に見学することにした。詳細予告は本号三七頁に掲載。GAP会員でなくても会員の家族または知人ならば参加可能。

★日本GAP維持会員制度

日本GAPは普通会員とは別個に維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、特にGAPの運営と発展に寄与するための援助活動で、絶大な役割を果たしている。これに加われば久保田会長が毎月個人で発行している「意識の声」と題する小冊子のエッセイが維持会員に直送される。これは本誌に掲載されない秘話、会長が実践している宇宙的能力開発法、会長の珍しい体験、GAPの行事速報、その他興味深い記事が掲載されている。特徴は常に読者に大いなる信念と勇氣

と希望を起こさせる言葉に満ちている点にある。

このエッセイ「意識の声」はA4判紙面にぎっしり印刷された記事が四頁分ある(折って綴じれば八頁分になる)。美麗オフセット印刷。大体に各月の下旬に翌月号が発行されるが、会長が超多忙な場合には少し遅れることもある。会長はいつもA4四頁分の原稿を自分でワープロにより一日で書き上げてオフセット版下を制作している。

維持会員に加入希望の方はハガキに「維持会員案内書」と書いて日本GAP宛に送れば案内書と専用振替用紙が送られる。

★原稿募集

本誌はUFOと宇宙哲学を基調とする精神世界探求の専門誌であり、たんなる興味本位と猟奇趣味を極力排したまじめな専門誌として絶賛を博している。UFO問題ではとくく恐怖心を起こさせるオバケ宇宙人、誘拐事件等が流布しがちであるが、本誌は内外の事件を徹底的に吟味厳選し、真実と断定できる記事のみを掲載する一方、また哲学的思想的な面にも留意して、読者に明るい希望と勇氣と信念を起こさせるための啓蒙主義を買っている。

本誌はUFO現象目撃、UFO写真撮影、または宇宙哲学の実践成果、能力開発等の原稿を募集しているので投稿されたい。原稿は手書き、ワープロ打ち等自由。掲載分には薄謝を呈する。

宇宙

2010年、宇宙へ家族旅行

「地球二周、宇宙ホテル三泊のお正月特別企画。今ならペアで四百万円宇宙旅行株式会社」

こんな宇宙観光募集の広告が、まもなく現実になりそうだ。宇宙飛行を目指す民間有志の「日本ロケット協会」（会長＝長友信人・宇宙科学研究所研究主幹）が、健康人ならだれでも訓練なしに行ける宇宙旅行の事業化プランをまとめ、三月にも公表する。

使うロケットは、五〇人乗りの垂直離着陸型「観光丸」。技術的には二〇一〇年頃の初飛行も夢ではない。気になるお値段は当初、数千万円と住宅なみだが、五〇機体制で営業すれば二〇〇万円程度まで安くでき、来世紀中頃には年間約七五万人が宇宙を体験できるようにになるといふ。

観光丸の設計は川崎重工工業のデザインで、直径一メートル、高さ二メートル、総重量五五〇トン低コストの単段で三千回は飛行できる完全利用型。軌道上の宇宙ホテルの構想を持っているのは清水建設。高さ二四〇メートル、直径一四〇メートルで客室六四と大型。宇宙が大衆化する時代はもう目の前だ。（1・6 読）

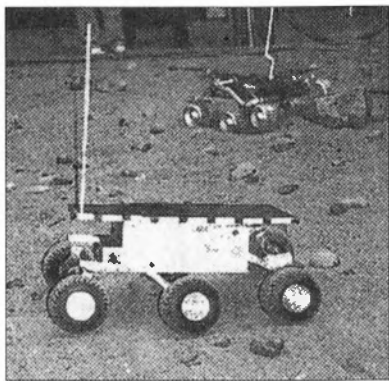
火星探査機を打ち上げ

米航空宇宙局（NASA）は昨年二月四日、火星探査機「マーズ・パスファインダー」を載せたデルタ2型ロケットを、フロリダ州のケープカナベラル空軍基地から打ち上げた。すでに火星に向かっているNASAの探査機「マーズ・グローバル・サーバイヤー」（二月七日

打ち上げ）より先に到達し、米独立記念日の今年七月四日に火星表面に着陸する。成功すれば、一九七六年の米「パイキング1号」以来二年ぶりの着陸となる。パスファインダーの着陸ステーションは、三枚の太陽パネルを展開させて活動。パイキング時代にはなかった全長六五センチ、六輪走行の小型探査車（ローバー）を送り込む。

探査車は、地上からの遠隔操作でロボットのように火星表面を動き回り、土や岩の組成を分析。NASAの研究者が発表した「火星に生命が存在した可能性」の決定的証拠をつかむため、生命存在を見込めそうな地点の選定作業を行なう。（96・12・5 毎）

▲マーズ・パスファインダーの小型探査車。（実物大模型）



木星最大の衛星ガニメデは「地球

ガニメデは内部が溶けた金属で、その周囲が固体のマントルという地球に非常によく似た構造を持つ可能性が高いことが、米国の木星探査機「ガリレオ」の観

測結果から分り、九六年二月二日付の英科学誌「ネイチャー」に掲載された。研究者は「衛星というより惑星に近い」と説明している。

今年、ガニメデ上空を通過したガリレオは、かなりの広範囲で強いプラズマ波を観測。米アイオワ大やカリフォルニア大の研究チームが分析を進め、ガニメデ自身が磁場を生み出していると推定した。また探査機の「ボイジャー」「パイオニア」がこれまでに観測した、ガニメデ内部の岩石や氷の割合を示す密度のデータなども総合して、衛星内部には鉄などが溶けた半径四〇〇〜三〇〇キロの核があり、周囲を固体のケイ酸塩物質でできたマントルが覆っている可能性が高いと結論した。中心核の鉄分が対流運動を起すことによつて電流が流れ、磁気を起すことという。太陽系の惑星の中で強い磁場を持つのは地球と水星。ガニメデの磁場は地球の約一〇分の一だが、金星や火星よりは格段に強い。直径約五三〇〇キロで水星より大きい。最近薄い酸素が存在することも突き止められた。研究チームは生命をはぐむ環境にもつながらる水の存在も指摘しているが、場所はガニメデ表面の氷の層から八〇〇キロほど地下だといふ。（96・12・12 毎）

▲昨年六月ガリレオが撮影したガニメデ。



木星衛星に生命の可能性

米航空宇宙局（NASA）は一月七日、ワシントンの本部で会見し、木星の衛星の一つ「エウロパ」に生命が存在する可能性があることを明らかにした。

無人木星探査機「ガリレオ」が数十キロから数百キロにわたる巨大な氷の塊や、火山から水がすずり落ちた痕跡を撮影した。会見した科学者らによると、水と熱、有機化合物が織り成すこのような環境は、生命の誕生に理想的な条件となるといふ。科学者の一人は「エウロパは、生命が存在する可能性を調べる最高の実験室だ」と語った。

ガリレオは、昨年二月一九日にエウロパから六九二キロ以内に接近、その際に今回の画像を撮影した。（1・18 毎）

■木星の衛星エウロパ「生命の存在」高まる

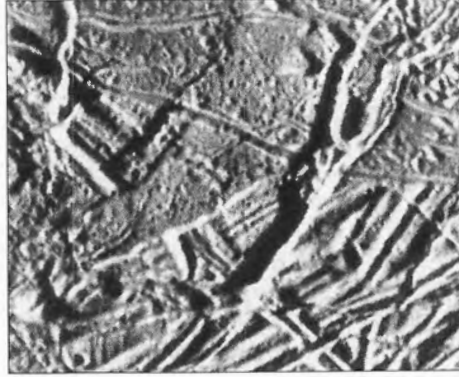
木星の衛星エウロパに水があり、生命が存在する可能性がますます高まってきたと、米航空宇宙局（NASA）の科学者が明らかにした。惑星探査機ガリレオが昨年一月にエウロパに接近、数十キロから数百キロにわたる氷の塊や火山から水がすずり落ちてきたとみられる痕跡を撮影した。

エウロパに水が存在する可能性についてNASAは、ガリレオが昨年八月に約一五万六千キロ上空から撮影した写真をともに、すでに推定していた。今回は約六九二キロ以内に接近しており、水と熱、有機化合物が存在していた可能性が高いといふ。こうした環境は生命が誕生するのに適しているといふ。

ガリレオは二月二日には、さらに五八七キロ以内にまで接近する予定だ。

(1・20朝)

▲惑星探査機ガリレオがとらえた木星の衛星エウロパの表面の写真をNASAが公表した。昨年一月、三三四〇キロ上空から撮影。氷に覆われた表面は地殻変動により無数の溝ができています。



■宇宙空間を巨大電波望遠鏡に

宇宙空間に口径三万キロの巨大な電波望遠鏡を作る天文衛星「Musee B (ミュージーズB)」が、二月一日、鹿児島・内之浦町から打ち上げられる。世界で初めての計画で、ブラックホールの観測などに威力を発揮すると期待されている。各国の研究者から観測申し込みが相次ぎ、観測スケジュールは一七七月先まで決まっている。

Musee Bは文部省宇宙科学研究所が開発した。本体は縦、横一・五メートル、高さ一メートルの箱型で、重さ約八〇〇キロ。打ち上げから二週間後に折りたたんでいた八メートルのパラボラ

ンテナを開く。軽量化のため、アンテナは金属製の網で作った。伸縮性を持たせため、金メッキしたモリブデンの糸をストッキングと同じトリコット編みにしてある。開発、製作費は約一〇〇億円。三年から五年の間、観測を行なう予定だ。

★電波を見る

普通の光学望遠鏡は天体から出る光をレンズや反射鏡で集めて見る。これに対し、電波望遠鏡は天体が発する電波を見る。電波も光と同じ電磁波の一種で、宇宙には目に見えない電波を発する天体が多々ある。これを観測することで、光学望遠鏡では見えない宇宙の現象を観測できる。

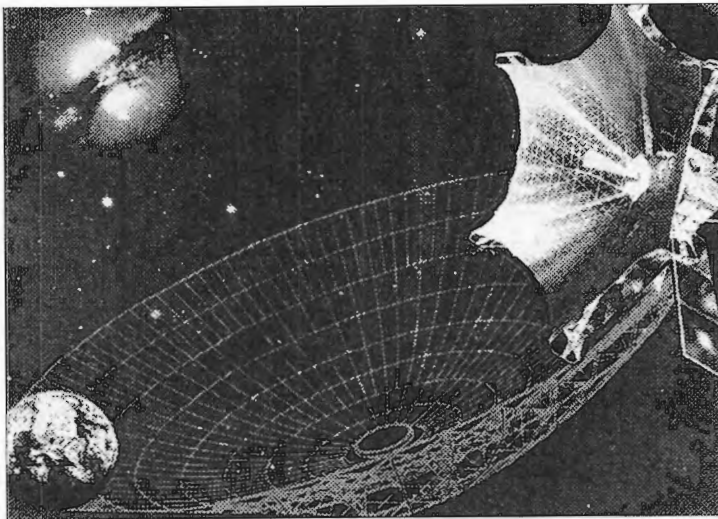
望遠鏡の原理は光学望遠鏡も電波望遠鏡も同じだ。望遠鏡でどれだけ細かいものが見えるかという「分解能」はレンズや反射鏡の大きさに比例する。電波望遠鏡もパラボラアンテナの直径が大きいほど分解能は高くなる。

地上の一〇〇キロ離れた二地点間に電波望遠鏡を置き、同じ天体を観測する。原子時計で観測時刻を合わせて、それぞれが得た電波を互いに干渉させ、コンピュータで電波画像を合成する。すると直径一〇〇キロの望遠鏡で観測したのと同じ分解能を得られる。

地球上では二地点間の距離はせいぜい一万キロ程度しかとれない。それなら宇宙に観測局を作ろうとMusee Bが計画された。これは地球から一番遠ざかった時の高度が二万キロの楕円軌道を約六時間で回る。地球上の電波望遠鏡と組み合わせると、「二万キロ十一万キロ」で口径三万キロの望遠鏡が出来る。この巨大望遠鏡は地球から月面上の一八センチの

物体を見分けると同じ能力を持つ。日米欧など世界二五カ所の電波望遠鏡が共同で観測にあたる。

Musee Bを打ち上げるロケットは宇宙研が一九九〇年から開発に取り組んできた三段式「M-Vロケット」。全長三〇・七メートル、直径二・五メートル



▲地球(左下)の電波望遠鏡とMusee B(右上)を結び、口径三万キロの電波望遠鏡を宇宙に浮かべたのと同じになる。

ル。固体燃料を使うロケットとしては世界最大級で、地球を回る低軌道に約二トンの衛星を打ち上げる能力を持つ。日本ではMusee Bに続き、月の内部構造を調べるLUNARIAや火星探査機PLANET-Bなどを打ち上げる予定になっている。(1・28毎)

へハイテク

■4ギガDRAM開発

NECCは二月六日、半導体メモリーとしてはこれまでに最大の情報記憶容量を持つ4ギガ(二〇億)ビットDRAM(記憶保持動作が必要な臨時書き込み読み出しメモリー)を世界で初めて開発し、と発表した。大量の動画像や音声を取り扱うマルチメディアデータ向け主力メモリーとして、二〇〇二年の実用化・量産開始を目指している。

4ギガDRAMは約三センチ四方のチップ一枚に四億素子を集積化。新聞で約一年半(二万六千ページ)、音声で六時間、動画で四七分間分の情報を記憶できる。複数の4ギガDRAMを高性能パソコンに搭載すれば、通信ネットワークを使って家庭のユーザーに好みに応じた映画をリアルタイム配信する「ビデオ・オン・デマンド」システムも容易に実現するという。(2・7毎)

■「光」上回る性質の原子レーザー

音楽用のCDプレーヤーやスピーカーのバーコード読み取り器などに使われるようになった「光レーザー」よりも、格段に優れた性質を持つ「原子レーザー」を作り出すことに、米マサチューセッツ工科大(MIT)の研究チームが成功し、二七日発表した。原子レーザーを発生させることができたのは世界で初めて。極めて正確な時計や半導体の超微細加工など将来のハイテクへの応用が期待できるという。(1・28誌)

■電気自動車普及へ弾み

低公害車として期待されながら、性能の低さから普及が進まなかった電気自動車(EV)が実用に向けて動き出した。

走行距離が二〇〇キロを超えるバッテリーが新たに開発され、国の補助制度も始まった。トヨタ自動車は昨年九月から小型RV(レジャー用多目的車)をベースにした「RAV4 EV」を売り出した。新開発のニッケル水素電池により一回の充電で二五キロの走行が可能という。これまでガソリン車の五七倍と言われた価格も二・五倍程度の四九五万円に下がった。日産自動車は今春からリース販売する「ブレイリー・ジョイ EV」も高性能なりちウム・イオン電池を搭載し、二〇〇キロ以上走る。(2・21誌)

〈医学〉

■心不全に特效薬

高血圧の治療薬としてスイスや国内のメーカーが開発に取り組んでいる薬が画期的な心不全治療薬となることが、筑波大学循環器内科と薬理学のグループの研究で分かった。心不全のラットに投与したところ三カ月後の生存率が二倍になることが判明したもので、この成果は九六年一月二八日付の英国の科学誌ネイチャーで発表された。

この薬は血管収縮物質エンドセリンの遮断薬。エンドセリンは一九八八年に同大学基礎医学系のグループが血管の内皮細胞から発見した。従来から知られる血管収縮物質の約一〇〇倍の効果を持っていた。同内科の宮内卓講師は九三年に心臓病の患者の血液にエンドセリンが特に多いことに気づいた。実験的に心不全を起こさせたラットで調べたところ、心臓の筋肉細胞ではエンドセリンを作る遺伝子が特別に働き、エンドセリンを多く作らせていることが分かった。そこで心筋梗塞を起こさせた心不全ラ

ットに、エンドセリンの付着を遮断する開発中の薬を投与したところ、三カ月後の生存率は無投与の四三パーセントに対して八五パーセントと、約二倍の延命効果があった。ラットの肥大化した心臓は正常近くまで回復した。(11・28毎)

■ブドウに発ガン抑制物質

ブドウなどに含まれている「レスベラトロール」という物質に強い発ガン抑制作用があることが分かったと、米イリノイ大学の研究グループが一月一〇日付の米科学誌「サイエンス」に発表した。従来の化学抗がん剤のような副作用はなく、将来、安心して服用できるガン予防薬の開発を期待できそうだ。

イリノイ大のジョン・ベスト博士らは、人間が食用にする植物の中から数百の天然化合物を抽出。その抗ガン作用の有無を調べる実験を繰り返した。レスベラトロールの働きを発見した。クワの実やピーナツなど約七〇種類の食用植物(果物・野菜)に含まれていたが、ブドウ、特にブドウの皮に一番豊富だった。ワインでは心臓発作の抑制効果があるといわれる赤ワインに多い。

実験では、皮膚ガンを持つマウスにレスベラトロールを一八週間投与したところ、何も与えなかった場合と比べ、ガン細胞の数を六八・九八パーセント減らすことができた。また「血液のガン」である人間の白血球の培養細胞に添加すると、異常細胞の生産がストップし、ガン細胞が正常細胞に戻ったという。一般に発ガンには、▽正常細胞のDNA(デオキシリボ核酸、遺伝子の本体)損傷などでガン遺伝子が目を覚ます。▽細胞分裂が促進されてガン化する▽腫瘍ようが悪化し、転

移を始めるの三段階があるが、ベスト博士によると、レスベラトロールは三段階のすべてを抑制した。(1・10毎)

■お酒好きな人にはコーヒーがよい

コーヒーを沢山飲む人ほどアルコール性肝障害の指標であるガンマーGTPの数値が減少する(肝臓病にならない)という、コーヒーとお酒が好きなたをにんまりさせるような調査結果が、九州大学医学部の古野純典教授(公衆衛生学)らのグループによってまとまった。

調査は、長野県中部公衆衛生研究所が九五年四月から一年間、同県内で職場検診した約三万四千人のうち、四〇一六九歳で肝疾患などの病歴がなく、肝機能検査の数値が基準値以内にとまっている約一万二千人を対象に行なわれた。

その結果、ガンマーGTP値(基準値男性五〇単位以下、女性三〇単位以下)は、酒量が多い男性ほど高く、純度一〇〇パーセントのエタノールを毎日三〇ミリリットル(日本酒に換算して一合強)以上飲む男性の平均値は四二単位で、アルコールを全く飲まない人(二二単位)の二倍だった。しかし毎日三〇ミリリットル以上飲み、コーヒーを全く飲まない人のガンマーGTP値は四五単位以上だったのに比べ、コーヒーを一日に二、三杯飲む人約四〇単位、三、四杯の人は約三五単位、五杯以上だと約三〇単位と、コーヒーを沢山飲むほどガンマーGTPが低くなっていくことが明らかになった。ところが興味深いことに、カフェインを含む緑茶ではこうした肝機能データへの影響は見られず、カフェイン以外のコーヒー成分が、飲酒による肝臓への負担を緩和しているらしいという。(1・25誌)

宇宙の真実を語る アダムスキー

Adamski Talks about
the Truth of the Cosmos
by Tetsuya Higo

肥 後 哲 也



▶ジョージ・アダムスキー

アダムスキーを理解して
純粋な生き方をめざす
一青年の真摯な手記

間 スペースピープルは肉体系

私は小さい頃より神秘的なことに興味を持っていました。幽霊やら占いやら沢山あった中でも、UFO、宇宙人、スペースクラフトには非常に強い興味を持っておりました。小学校から大学

に行くまで、図書館に行くとき必ずUFO関係の本を読んでいました。しかしその内容はご存じのように非常に幼稚で、宇宙船にミサイルがついていたり、ロケットで飛んでいた、かつまた否定的な内容を持つもの、つまり宇宙人は地球の人間をアリのようにしか思っていないとか、人間や家畜も含めて生体実験の道具としか思っていないといった内容のものばかりでした。

中学校の頃は聖女○○○○○○さん
を本気で信じていました。お祈りを真剣になつてやっていました。今考え
るとそれが本当であれ嘘であれ、UFO
は、とうよりもスペースピープルと
いわれる宇宙の同胞は我々と同じよう
な肉体を持った存在で、チャネリング
(霊媒を通じての心霊的な通信)によ
つてみずからの存在を示したがるうと
する存在ではないと実感しております。

都内でUFOを目撃する

私の実家は北海道で、北海道はUFO
の目撃が多い所らしいです。私自身
は北海道ではUFOをあまり目撃しな
かったのですが、父のいる東京へ帰る
と(中学校の三年間ほど北海道にいま
した)私はグループホームといつて市
立のボランティア団体に面倒を見て
もらっていた頃に(というのには父は問
題のある人間で、そのとき無職で扶養
能力がありませんでした)世田谷区の

上祖師谷から小田急線の千歳船橋にあ
るC高校に通つておりました。

ある日、上祖師谷へ帰る途中、銀色
の物体が空に浮かんでいました。それ
はパチンコの玉みたいに丸い形でした。
空中に音もなく止まっていて、そのと
き私は一人で自転車をこいでいました
が、あれは絶対にスペースクラフト、
つまりUFOだと思いました。直感で
すが、自転車をこいでいたので、電信
柱の陰にその物体は隠れてしまい、次
の瞬間パツと消えてしまいました。

接近してくるUFO

大学の頃、私は広尾のTという学校
の警備を一月ほどやりました。あの
辺りはミステリーゾーンだと聞いてお
りましたが、たしかに不思議なことに
校庭に出るとジーという電磁音が何回
かしていました。

ある夜、巡回警備をしていると、最
後の打点点に行く手前に星がスーと国
大方面より渋谷へ向けて動いておりま
した。あんなに遠いんだから自分の所
まですぐ来れるわけではないと思いま
した。直感的にそれがUFOだと思つた
んです。

その目撃見は三秒で見事にはずれま
した。三秒間で星から満月みたいに大
きくなったのです。つまり私の方へ近
づいて来たのです！ 私はびっくりし
ました。

その機体はオレンジ色で、下から濃いオレンジの光を発していました。音はありません。私は怖くなって逃げました。そしたら校舎の上空へ消えてしまいました。



その当時、私は否定的なUFO関係の記事ばかり読んでいましたので、このままさらわれて、どこかの見知らぬ田舎に適当に降ろされるか、解体されて遺伝子の実験材料にされるかなと思っていました。そして本部に電話して、そのすべてを話しましたら、飛行機の見間違いだと言われました。お前は疲れているんだ、だから落ち着けとも言われました。確かにEM効果はなかったです。体の自由もきいたし電話もできたので。

しかし仮眠室に行くときには小人宇宙人が目を吊り上げらせて待っているのじゃないかとおそろおそろ行きました。しかしちゃんと仮眠しました。警備員はその後やめました。

真実の情報はアダムスキーより

そんなことがあっても古本屋を探すと必ずUFO関係の本を買っていました。そんな折に『金星・土星探訪記』を手に入れました(新アダムスキー全

集第五巻)。これだなという実感を得たのは三回ほど通して読んでからでした。そして久保田先生にお手紙を差し上げました。あのときはマ〇〇〇のコンテンツクトも否定的な情報から肯定的な希望を持つために信じていましたが、今ではG・アダムスキーの情報のみを信じております。

初めて日本GAPの会合に参加するとき、杉並の成田西より井の頭通りにて甲州街道に合流するまでのあいだに一瞬ですが円盤がサツと見えました。オートバイで走って行く前方に見えました。白いシルエットの光で次のように見えました。



そのとき気分は爽快で、口の中にミントのような香りが満ちていました。私は確信しました。本当の情報はアダムスキー哲学なのだ、これを勉強して実践するぞと、心に決めました。

他人から傷つけられても報復しない

私が一番好きで、かつ実行しなければならぬと考えるのは、金星人オゾンが語った「たとえ地球の同胞が無知のために私達の生命を奪おうとしても、私達は決して彼らを傷つけませ

ん」という一節です。私は今までに何度も争いに巻き込まれましたが、この一節を読んで泣きました。そして争いに加わらず、やりすぎることが出来るようになりましたのは、この宇宙の同胞の力強い愛の言葉が頭の中で「他人を傷つけるな、傷つけるな」と叫ぶからです。宇宙の同胞に心から感謝しています。

久保田先生の素晴らしさは、長いあいだ宇宙問題で多くの人から叩かれ笑われて苦労しているのに、私のような入りたての人間の話もよく聞いて下さることです。以前、私は先生に、私はTM(超越瞑想)をしておりますが、アダムスキーの哲学の中に、宇宙問題を解いてゆくには、霊媒は無用、瞑想は無用といった一節があり、私はTMをやめるつもりはないし、おそらくアダムスキーさんは当時のカリフォルニアで流行っていた薬を使った瞑想や、一日中瞑想ばかりやっていた人々をさして、そう考えたのではないかと思いました。

しかしTMは朝夕二〇分ずつ一日四〇分のみ短時間で、勉強や仕事などを能率的に行なおうというストレス解消のみを目的とした、ちよつとした行法なので(もちろん生活を能率的にし、現代人の疲労を少なくし、生活を楽にすることが目的)、これを行なうことは宇宙哲学に反するかどうかと先生におたずねしたところ、別に問題はない

んじゃないかという旨のご返事を頂きました。そうしたらそのときの会報ユニコン誌に、瞑想的でありなさいという記事を先生自らお書きになり、嬉しかったです。

(編注)アダムスキーが宇宙の意識と一体化するのに特別な行法は必要ないと述べているのは、戦後カリフォルニア州で雨後のタケノコのように増えた特殊な精神世界探求団体が、怪しげな行法や特殊な瞑想等を売り物にしていた風潮を批判したもので、真実の瞑想とは無関係。昔アダムスキーが指導していた頃、付近に「ビーイング」と称する団体が急速に超能力を開発できる方法を伝授すると宣伝したために、アダムスキーの会員を全部そちらに取られたという経緯があったと聞いています。

久保田先生をはじめとしてアダムスキー哲学を信じて実践してきた方々が、世間や世界に認められる日はもう遠くありません。私も心から信じていきます。そして私は大勢の人に伝えてゆきます。バカにされながらも伝えてゆきます。本物はいつまでも隠すことは出来ません。必ず最後には認められます。先生にはいろいろな事を本にして出版して頂き、本当に有難うございました。久保田先生をはじめ、日本GAPの皆様にお礼を申し上げます。そしてまた会合に参加する折には私を認めて下さい。

転生のメカニズムについて

千葉福造

いつも本当に有難うございます。最近ふと思うことがあります。それは久保田先生にめぐり会うことが出来て、本当に良かったと思うことです。それに先生のいる東京の月例セミナーに毎月参加できるほど私は近い所に住んでいるのですから（筆者は都内葛飾区在住）、すごく恵まれているなと思うことです。私はこれから一歩一歩着実に先生の後方について行きますので、先生もお体を大切に、また外部の圧力に屈することなく、人類の未来に向かって前進して下さい。

生と死。これは決して切り離す事のできない表裏一体のもので、男女が波動の共鳴によって出会った上、結ばれて、やがて受精が起こります。男女の波動が同調、一体化することにより、波動が増強され、そして受精したことにより、さらに強さが増します。

その強さにより三番目（受精した卵子）の波動が共鳴し始めます。そこには1+1+1+3の原理が発生しているのです。古くなった肉体（死を迎えようとする肉体）はすべての役割を終えようと準備段階に入りますが、しかし本人のマイナンドは、それに気がつきませ

ん（特に地球人は）。

本人を形成している肉体細胞は、すでに生まれる側の子（胎児）の波動と同調し共鳴し合っているのです。誕生するまでの間、死を迎える方にも準備期間はあるのです。そしてすでに生まれ変わる場所は決まっています。

つまり転生（生まれ変わり）とは、波動の共鳴により、古い肉体から新しい肉体に移行するだけのことなのです。そこには距離は存在しません。宇宙の意識という「因」の世界に存在するからです。それが肉体上の臨終であり出生なのです。そしてその転生の瞬間こそが、もつと愛を感じ、新しい肉体を得ることの喜びにひたるときなのです。人間には最も重要な部分だと思えます。

人間の肉体細胞はあらゆる波動を映像に変えたり、また素晴らしい音響効果まで体験させてくれます。波動を翻訳する精密な翻訳機なのです。胎児は母親のお腹の中で母親の夢を共有することによって脳を発育、発達させ、母親の心の動きもしつかりと翻訳しています。そして親子（子はまだ胎児）の強力な波動に導かれて、新しい肉体の

▼筆者からの質状

青空は突然透明な風が吹くのが面白
 中心に銀色のUF0が現れた。
 その透明な風が吹くのが面白
 がグニャ、〜と動いて
 いるのが分かった。
 手紙が来る
 元且
 銀色のUF0が吹く
 残った。
 そのうす、とても美しい
 虹色を二回放った。
 2の体験はとても
 強く、印象的
 心に深く残ったもの下。
 1995-11-11(土)
 AM: 9:05

誕生とともに、古い肉体のすべての体験を刻み込んだ緻密な波動としての魂である「宇宙の意識」は、新しい肉体である新生児に出生の瞬間に移行します。

その瞬間、新生児は全身に電気が流れるような強いショックを肉体内部で感じるのです。新しい肉体にスイッチが入るその瞬間から古い肉体（前世）からの記憶（データ）を引き継ぐのです。肉体内部においてすべての翻訳が始まります。

覚醒時には映像化し、睡眠時には夢という形で前世の記憶（データ）を、再現し、それが脳細胞に刻み込まれて全身の細胞へとひろがり、浸透し、そして記憶されてゆきます。それは生後、三〜六カ月ぐらいで、外部からの学習が始まる頃にはすべて完了します。そ

の記録はけつしてごまかすことも曲げることもし出来ないものなのです。そしてその記憶こそが人生の道標になるのです。

（編注）転生の法則についてはジョージ・アダムスキーが新アダムスキー全集第五巻「金星・土星探訪記」の中で述べている実話として、彼が金星の大型船の中で一見一三歳程度に見える金星人の少女と会見するのだが、これが実は一九五四年にロサンジェルスで急逝した亡き妻メリーが金星人に転生した（生まれ変わった）姿であることを知る。そしてこの少女はアダムスキーとの生前の生活のすべてを記憶しており、宇宙的な過去世の記憶の法則に関する知識をアダムスキーに伝えるのである。千葉氏も人間の転生に関する法則を把握したものとみられる。

一九六三年一月二日、テキサス州ダラスで遊説旅行中、銃撃されて悲劇的な最後をとげたジョン・F・ケネディ。大統領が実はドイツで少年として転生していた(生まれ変わった)という驚くべきニュースが出て全米にショックを与えた。ただしこれは一九七一年七月五日付米紙『ミッドナイト』に大きく報じられたもので、当時の新聞記事を手したアダムスキーの最後の高弟アリス・ボマロイ女史から最近コピーが筆者に送られてきた。以下凄く興味深い内容を紹介しよう。

生前のケネディーに関する驚くべき知識を持つ少年

事の起りはドイツ・ミュニッヒに住むノーバート・シューラー氏夫妻の息子ヨハン(七一年当時七歳)が、知っているはずのないアメリカのケネディー大統領に関し突然非常に詳しい話を始めて両親や超心理学者達を仰天させたことから始まる。

ヨハンが過去世を記憶している事柄の中には次のようなものがあるのだ。>多数の群衆に歓呼の声で迎えられている

そして彼の死亡は一二時五九分に発表されている。だが立ち会った医師団は大統領の脳に弾丸が撃ち込まれてからまもなく彼が死亡したと確信している。したがってこれはアダムスキーの言う「転生は平均三秒で行なわれる」という法則にぴたりとあてはまるのである。

バナーイー教授によると、少年の頭の上右側にはバースマークがある。バースマークというのは、生まれつき体のどこかに刻まれている、何かを意味するらしい特殊なアザやキズを意味する。アダムスキーにはヘソを中心に太陽の放射線に似た大きなバースマークがあったと伝えられている。

この少年のバースマークは撃たれた大統領の傷の位置と大体に同じ場所にあると言っているのはバナーイー教授。彼は語る。「我ががヨハンについて異常な点に気づいたのは彼が三歳のときだった。病院で生まれてまもない弟を連れて帰ったとき、ヨハンがそれを見て叫びだした。「ジョン・ジョン」とね。我々は笑って制止した。「それはジョンじゃないよ。エリックだよ」ジョンというのはケネディーが可愛かった息子の名前であって、ヨハンはその再来だと思っただろう。

ケネディー夫人を恋しがるヨハン

それから数週間後、小さいヨハンは大衆雑誌の一頁を破り取って母親の方に差し出した。

し出しながら叫んだ。

「ジャッキー！」

母親はその頁の写真を見てたまげた。なんとそこにはケネディーの夫人であったジャクリン・ケネディーの顔があったのだ。

最初、シューラー夫妻はこの現象のすべてを偶然の一致にすぎないと考えていた。

「しかし偶然の一致がほとんど毎日のように発生し始めたんです」と夫人が言う。

一例がある。ある日ヨハンが床の上に伏して便箋紙に絵を描き始めた。

「家の絵を描いたらどう？」と母親がうながす。ヨハンが慎重に描き始めたが、それは上部にドームのある細長い低い建物で、米ワシントン市のホワイトハウスだった！

ある日、たいした理由もないのにヨハンが父親に話し始めた。

▲過去世を思い出すヨハン少年。



ケネディー大統領はドイツに転生した

●久保田八郎 日本GAP会員

る。専用機に乗って飛んでいる。ホワイトハウスのジョン・ケネディーのオフィスの詳細と、約二〇名の友人や政敵の顔。詳細なアメリカの歴史等

またヨハンには次のように言う。>「ヨハンがこんな事実を知っているとは驚くべきことだ。誰も彼の前でこんな話をしたことはないからだ。彼はいま小学校の教科書を学び始めたばかりなのだ」

こう言うのは少年を徹底的に調査した一流の超心理学者H・N・バナーイー

ケネディー死亡時に生まれたヨハン

ヨハン・シューラー少年は一九六三年一月二日、午後九時四八分に生まれた。これは米テキサス州ダラス時間の午後一二時四八分に相当する。ケネディーが撃たれたのは一二時三〇分であった。



▲ジョン・F・ケネディー

▼ジャクリーン・ケネディー・オナシス





◀パナーイー教授



▲ノーバート・シューラー夫妻

「リンカンが奴隷を開放したので、だれかがリンカンを殺したんだね」
これは父親がリンカンについてたずねたので、少年が彼の部屋へ走り込んで、そう言ったのだ。
五歳になるまでヨハンはまだで何かにとりつかれたようにジャッキー（ジャクリンの愛称）の写真類を見つけようとして、あらゆる雑誌をあさっていた。そし

て何度も彼はジャッキーの写真の一つを長時間見つづけるクセがあった。母親の話によると、ヨハンは何度も夜中に突然目覚めて泣きながら「ジャッキー」と呼びかけるという。

ジャッキーの再婚に怒り狂うヨハン

ジョン・F・ケネディーの悲劇後五年目にして今度は弟のロバート・ケネディーがロサンゼルスで射殺された。なんという悲運な一家だろう。魔物につきまとわれたようなこの兄弟のカルマは到底ただものではない。

ロバートの暗殺が世界の耳目をゆるがしたとき、ヨハンは溢れる涙を抑えきれなかつたとシューラー夫妻は語る。どうしたのかと両親から聞かれたヨハンは答えた。「ボビーが死んだ」

ボビーというのはロバートの愛称である。「私達はロバート・ケネディーと言っていたのに、ヨハンはボビーと言うんです」と母親が言う。

ヨハンが五歳になるうとする頃、ジャッキー・ケネディーはギリシャの大富豪アリストートル・オナシスと結婚して世界を驚かせた。アメリカでは節操のない女として轟々たる非難の声が上がった。これを知ったヨハンは反狂乱になってオナシスの顔写真の掲載された新聞をずたずたに引き裂いたと母親が言う。

ホワイトハウスの正確な記憶

約三年前にシューラー夫妻はパナーイー教授に書簡を出して、息子の行状の詳細を知らせた。この種の手紙を多く受け取っている教授は最近になってやっとミューニヒに来た。

「私は三度ほど調査の話し合いをやったが、そのどれも丸一日かかった。あの子供は両親よりも私に対してうんと自由に話してくれたね。」

彼がそつげなく言うには、こうだ。彼は前世でアメリカ国民の指導者として生きていたというんだ。そこで私は、坊やが前世で働いていたオフィスについて詳しく話してくれと言うと、非常に詳細に説明してくれた。

その後、私がホワイトハウスについて調べてみると、彼の言ったことは寸分違わずに正確であることがわかった。

あるとき彼はリンカンという名前を出したので、それはアブラム・リンカンのことかとずねたら、坊やはいらいらしながらすぐに答えた。

「違うよ。ほくが言うのは隣の部屋で仕事をしていたリンカン夫人のことなんだ」

これも的中していた。リンカンというのはケネディーの秘書であったエプリン・リンカンのことだったんだ。

また彼は前世で自分の専用飛行機を持つていたと主張するんだ。

彼はあるとき大群衆を前にして立つていた鮮明な記憶を持っていた。またあるインタビューで彼は『キューバは誤りだった』と言う。これについて説明を求めると、彼は『カストロは挫折するだろう。戦争は起こらないんだ』と答えた。

バナナ教授が、生前になぜテキサス州へ行ったんだと聞くと、少年はしかめずらをしながらかう言う。『それは大衆が私を見たがっていたからで、友人達もそこへ私が行くことを望んでいたからだ』

さらに坊やが言うには、彼は大統領として生きていた頃、朝、ベッドに横になつていてと二人の子供がやつてきて彼を抱きつく「夢」を見るのだという。

『女の子は紙に書いた手紙を私によく見せたものだ。私はいつも、よく書けたねと言つてはめてやつたよ。小さい男の子が部屋に入つて来るときに私はよく言つたものだ。お父さんに秘密を話してよとね。すると子供はベッドに飛び上がり私の耳元でガガヤしゃべつて、それから笑いながら飛び降りるんだ』

生前の妻の思い出を語る

その後、バナナ教授がケネディ一家を詳細に調査したところ、ケネディ大統領の最も楽しい生活行事は、早朝に二人の子供、キャロラインとジョン・ジョンが彼の部屋へやつてくることだった。大統領がまだベッドに横になつてゐる頃だ。ヨハンが言う。

『キャロラインはちょうど文字を書くことを学び始めた頃で、いつも最近の成果を父親に見せていたよ』

またヨハンは前世において彼の妻との親密な交わりの生き生きとした記憶を保つてゐる。

『彼女はたいへんきちんとした女性だった。いつも寝る前に、翌日着る服や手袋さえもベッドの足もとに置いていた。とても美しい女性だった。』

私が見たいへん疲れていたときも、彼女は私のベッドへやつてきて、私を抱いてくれた。

七歳の子供が言うことには、ちょっと異常ではないか。

『彼は明らかにあのガラスの日のあらゆる記憶が薄れているようだ』とバナナ教授が言う。『彼はどうかやら暗殺そのものについては何も記憶はないようだ。かりに記憶があつたにしても、話さないようにしているだけだろう』

シューラー夫妻が語るところによると、過去現在を通じて息子がアメリカの歴史を聞いたことは全くなく、それどころか最近小学校の教科書を学び始めたばかりだという。夫妻は転生（生まれ変わわり）というものを全く信じないけれども、別なことを模索中である。息子のふしぎな現象について何らかの納得のゆく解答を求めてきたのに、まだ全然見つからない。

成長するにつれて薄れる過去世の記憶

一方、シューラー夫妻は別なことで心配している。というのは、ヨハンが成長するにつれて次第に悲しそうな気分になつてゆくからだ。なんとかして正常な生活を送れるように成長してもらいたいと願つてゐるのだ。

だがバナナ教授は楽観的である。彼によると次のとおりだ。こうしたケースにおいては、大抵の場合、子供は過去世の記憶を失うものだ。これは現在の体験に関心を集中させるようになるからである。

以上で世にも珍しい実話は終わる。これは一九七一年代のこと、現在ヨハンが健在であれば三三〜四歳になつてゐるだろう。そして幼少時に人々を驚嘆させた過去世の記憶はほとんど消滅しているかもしれない。インチキだとか偶然の一致だとか言われて悲壮な人生を過ごすよりも、その方がよいかもしれない。

人間の転生は宇宙的法則

アダムスキーが伝えた宇宙的な情報の中に、人間の転生に関する理論がある。これについては新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』の中で、別な惑星から来た大母船の異星人がアダムスキーに語つた事としてイエスに關する話が出てくるのだ。つまり二千年

前にパレスティナで愛の哲学を説いて活躍したイエスは、実は地球社会を救うために金星から来て地球で転生した人物だといふのである。

またアダムスキーの夫人であつたメリーは、パロマー山の住居からバスでロサンゼルスへ旅行に出た翌日急逝した。そして数年後、アダムスキーは大母船の中で金星人の少女に転生した亡き妻と劇的な会見をし、一見、一三歳ぐらいのその女性から（金星では人間の成長が非常に早いという）転生やその他の宇宙的な法則を教えられる。この件の詳細は新アダムスキー全集第五巻『金星・土星探訪記』に出ている。

以上については強い批判が出るかもしれないが、筆者は数十年に及ぶ研究によつて事実であるとの線を維持している。この広大な宇宙には、地球人にとつて未発見の法則がどこに隠されているかわかつたものではないのだ。

筆者自身にも過去世の思い出らしきものが幼少時にあつた。三〜四歳のころだつたらうか、ある絵本を見ていたときいきらびやかな都市の絵が掲載されているのを見て、私はこのような都市から来た人間なのだといふ強い確信めいたものがわたしのを覚えてゐる。しかし成長するにつれて、その記憶は無関心の分野に移動していった。

転生のメカニズムは医学の進歩によつて解明されると確信している。

大宇宙の無限の力による長寿健康法

(完)

医学博士
塩谷信男

塩谷先生は九五歳。山形県上山市の出身。旧制東京帝大医学部卒。京城帝大医学部助教授を経て多年都内で医院を経営後、引退された。独自の宇宙観により正心調息法を編み出して、これを実修しながら幼少時の虚弱体質から強健な体力をつくり、さらに多数の難病患者を奇跡的に治したり、その他多くの奇跡を演じておられる一種の超能力者。いまだにゴルフに打ち興じて、一昨年の九四歳時にエイジシユート九四の世界記録を達成。テレビで放映されたほどの驚異的な体力の持ち主。以下は昨年九月に都内港区で開催された日本GAP総会における先生の二時間に及び講演録の前号からの続き。驚くべき若々しい声で長寿を保つ極意を披露されて聴衆に多大の感銘を与えた。

(前号の最後のイメージ法で物忘れを治したという説明の部分の続き)

固有な名詞も忘れなきや人の名前も忘れないし度忘れもしないの。年をとった人の中には、とんとんと二階へ上がって行って、「あれ、おれは何をしに来たんだ」と言う人があるんです。私のマニシヨンにもそんな人が多くいますよ。

九〇歳の爺さんが、なんと四〇、五〇の若さまで記憶力が戻っていったんだから、これはね、肉体の細胞が若返るよりもっとありえ得ないことです。脳細胞は特別だから。あとで脳細胞まで話がゆくと思いますので、そのときに分かるでしょう。

これは今までの話とは格が違いますよ。その格の低いのから高いのまで三つも四つも世界の人類が果たし得なかつたことを、私一人でやっていますのや。何をやっているかというかと、宇宙の無限力を使った呼吸法のおかげです。だから、私に出来るということは、あなた方にもみな出来るということですよ。あなた方に出来るということは、世界中の人がみな出来るということですよ。やっぱりここでもエブリワンの一人ということであって、オンリーワンではないんです。

これは話のアヤだと思つて、あなた方も出来ると言つておだてているんじゃないですよ、本当のことなんだから。ということば、私がやった、そしてほ

かの人もやった。ハア前立腺肥大症が治つた、白内障が治つたとか、沢山そんな人が出ていますよ。

だからね、ただ単なる話のアヤではないんですよ。実践の理を言っているの。特におもしろいのは前立腺肥大症です。何人かが治っていますけどね。みんな治つたのは一週間か、一番早い人は四〜五日と言っていました。そんなことで治っているんです。わしみたいに四年も五年もかかったというアホーはいませんのや。

創始者の私が、そんなに(治すのが)長いことかかっているのに、私の本を読んで知つた人がみんな一週間そこから治っているんです。分かりますか、その理由が。

単純なの。その本には、調息法をやつた、ずつとやつた、三年やつた、四年やつた、ちつとも治らない、だんだん悪くなつたとは書いてないんです。強い想念を燃やして熱心にやつたら翌日からよくなりだしたとしか書いてないから、それを読んだ人はみなそうだと思います。そして信ずるとおりに治つちやつたんです。みんなそうなんですよ。だって、徳島から来た便りによると、「うちの父親は四〜五回(の調息法)で治りました」と書いてあるんです。

その方法を作つた私の方が大喜びして「おめでとうございました」と言うほかないんです。想念の力の入れ方に

よつてそれほど違うんです。では、なぜ私がダメだったのかと言いますと、理由は簡単。わしは医者だから。

前立腺肥大症というものは、手術しなければ絶対に治らないという医学知識がある。もし治らなかつたら手術すればいいんだという甘え心がある。自分では意識しなくても、この知識が頭の中のどこかにありますのや。潜在意識になつてね。だから治るという信念の力をしっかり込めたつもりでも、なまぬるいんだね。

そのことまでは分からなかつたが、気をいれかえてしつかりやつてみたら、ほら、その翌日から良くなつたんです。三〜四年かかつて、治らなかつたのに、急によくなつた。

ところが、皆さんはそんな医学的な知識がないのと甘え心がないから、私と同じような病氣にかかつて、私よりも早くみんな治るんです。それなら、なぜ治つたか。話を聞いてらして感じてください。それらの病氣が治つたというのには、想念の力、意思の力なのだと。まさにそのとおりです。精神一到何事か成らざらんと申すでしょう。その格言に従つて沢山の人がいるんな困難を乗り越えてきましたよ、精神力で人間の極限までどころまでも乗り越えてきた。

治つた、治つた、治つたと念じただけでガンを治した人も沢山おられます。脳腫瘍も、治つた、治つたと念じて治

した人がいますけれど、反復思念だけで私が体験した前立腺肥大症の治癒や若返りの例はありません。それらへ挑戦したとしても出来なかつたのです。

これは人間の精神力の及ぶ範囲より、もつと高い所に要因があるんです。これは宇宙の無限力が治してくれたんです。精神力を超えたところに治癒の原

因があるんです。「宇宙の無限力が丹田に収められた、全身に行き渡つた」と念じるんです。

そして集められた宇宙の無限力を一定の部位に持つて行くんです。白内障に持つて行くのもよいし、脳に持つてゆくのもいい。治るといふ想念の集束放射、そのせいなんです。

さらにここで申し上げたいことは、病気を治すだけではなく、人生百般のことにこれを応用していると言つたでしょう。そのとおり、これを応用しますとね、人間に不可能な事がどんどん可能になってきます。そうすると思ふことがかなうから、どうしたつて百事如意になるんです。

また繰り返します。私一人ではない。皆さんがそうなるということを、私はくどいほど言いたい。聞きっぱなしでは困るの。実行して下さい。難問を沢山持つているでしょうが。

想念の強烈な集中力

それで、宇宙の無限力を使うとなぜ

そうなるか。想念を集めたら、なぜそうなるのか。(ポケットから紙を取り出して)紙を太陽に照らしてごらん下さい。一時間たつても燃えないでしょう。一週間でも燃えない。十年、百年も太陽に照らしても燃えないですよ。

ところが、ここにレンズを当ててみますと、たつた一分で燃え始めます。無限の太陽の光を集めても、千年たつても燃えないが、これでやれば一分。なぜか。理屈は分かるでしょう。太陽の光を集めたからです。

それならば、どれだけの光をこのレンズが集めたか。なんのことはない、この(レンズの)面積だけ。たつたこれだけの面積の太陽の光を集めただけで、この紙は燃えたんなんです。

宇宙の無限力の場合は、このレンズの働きをするのが想念。精神力。集束放射は同じことです。

それからここにもう一つ同じ原理が働きます。こうやってレンズをあてる場合、子供がやつても偉大なる科学者がやつても、結果はみな同じです。

しかしたつた一つ条件がある。焦点が正しくここへ結ばなければダメなの。ちよつと近くてもダメ。ちよつと遠くてもダメ。ちよつと曲がってもダメ。たつた一つ、ここに焦点を結ぶということが大事です。

ところが、想念の力で病気を治すという場合、どこにも傾斜もなければ、遠い近いもない。あるのは強いが弱

いだけ。私が四年も三年も前立腺肥大を治せなかつたのは、想念の力が弱かつただけです。ところが、その話を聞いたばこぼこ治つた人は想念の力が強かつたんです。邪念が入らないからね。

だから、自分は正心調息法をやつてますが一向に良くなりませんとか一向に丈夫になりませんかと言ふ人は、ちよつと考える必要があります。どこか足りない、つまり精神集中の力が足りなかつたんです。

これはただ単なる理論だけの話ではないんです。ちゃんと聞いてもらいたい。そして応用してもらいたい。

たとえば、ここに泉がこんこんと湧いてるとします。そのそばを通つた旅人は、コップ一杯飲んで「ああ、おいしかった、喉の乾きがいやされた」と言つて喜んで帰つて行つた。

次に来た人はバケツを持つて来て水を汲んだ。水も飲んだ、手もふいた、シャツも洗つた。そのあとに来た人はタンクを持つて来た。タンクに水を一杯汲んで帰つて、お風呂もわかれた、炊事もした。しかし湧き出る水はこんこんとして変わりない。

容器を持つてくる人がどれだけ入るのを持つて来たか。それをどれだけ使つたか。それによつて結果は雲泥の差になります。そこをちゃんと腹に収めて調息法をやつて下されば、ほんとに

有難いのです。

正心調息法の実修法

そこでこれから調息法の実修に移ります。姿勢は上半身を正しくします。下半身は座つていてもよし、あぐらをかいていてもよし。上半身を正しくするといつても、背骨を正しくする。ただしステッキを立てたようにボンと背骨を立てるんじゃないの。人間の背骨はナチュラリーに前後にカーブがありますから、そのカーブはそのまま生かします。ただし左右には曲げない。なぜかという、これは、背骨は白のよな骨が重なつています。左右にここから神経が出ています。横に曲げるとここから出ている神経の根元が押されます。すると押された神経で支配されている部分に何か異常が起こります。だから背骨はナチュラリーにまっすぐにしようして座ります。しかし左右には曲げません。

それから両手で印を組みます。両手を上げてごらんさい。手を組むのではなくて、おにぎりを握るように合わせます。それを下ろします。これが鈴の印を組んだ姿です。

そうして、今度は息を吸うの。そのときに鼻から吸う。しかし肺の下の方に吸う。そこは広いから。それで横隔膜が下がるの。そうすると息がもつと多く入ります。それはオヘソの下に吸



◀一九九六年九月に開催された日本GAP総会で講演中の塩谷先生。九五歳翁とは信じられないほどに超元気。
撮影／西川 太

うようなつもりになります。これが吸息です。

次は充息です。吸った空気を全部下腹に収めます、力を入れて。下腹には空気が行きつこないんですが、かならずここに止まるんですが、そうすると横隔膜がグツと下がります。そうすると下腹に力の入り方がうんと違います。丹田に吸うようにして横隔膜を下げるんです。そうして今度はグンと下腹に力を入れます。それから息を吐くのですが、それは吐息です。

これを二五回やります。目は閉じますが、これは軽く閉じます。背もたれに、もたれない。肘かけに肘を乗せない。私が合図をしますから、それに従って二回やつて下さい。あとは合図をやりませんから、ご自分でやつて下さい。

いいですか、ハイ「吸息」「充息」「吐息」「小息」(と先生は大きな声で号令をかける。一同はこれに合わせて実修する)目は閉じたままです。充息のとき、ウンとおなかに力を入れるときに、肛門をキュツと締めます。そうすると吐息になってくるときに、ひとりでにゆるみますが、それはかまいません。

はい、終わり。

呼吸の重要性

これから申し上げますことは、空気

を吸うということの大事さです。あなた方はいまこの呼吸法で息を沢山吸ったでしょう。あのときに入った空気は量と、いまそうやっていっているときの空気は量と比較してごらん下さい。ずいぶん違うでしょう。肺は小さな部屋から出来ています。そこへ血管がずつと回っています。血液が行きます。何しに行くかと言いますと、体中から集めた炭酸ガスをみな持つて行って小部屋に出します。そして各部屋に入っている酸素をもらって帰ります。

ところが、そうやって皆さんが普段に吸っている空気がどこまで肺に入っているかといえますと、ほんのわずしか入っていないということは分かるでしょう。大きく吸ってみればすぐ分かります。そのくらいで皆やつているが、本当は体はもっと吸ってもらいたい。体中の細胞はみなもたらう酸素が足りないの。もつともつと欲しいの。欲しいところへこの調息法で空気をやるから細胞は喜びます。体というのは細胞から出来ています。そして、お腹に力を入れたでしょう。みんなのお腹は見たところ小さいね。けれどもこの中には腸がどのくらい長いが入っているか知っています？

七メートルですよ。そのちっちゃなお腹の中にね。その長い腸がその中に入っているの。その腸をグルグルと血管が巻いているんです。

ということは、あなた方のお腹の中

には一杯血液があるということですが、ところがその血液はね、ドヤーンとしてあまり気持ちよく循環していません。鬱血うっけつしちゃってます。そうすると、せっかく栄養物をとつても、出来立ての新鮮なのがなかなか行かないんです。ところが、そこへ一つグンと力を入れてごらん下さい。すると腹圧が高まるから血液がグーツと出てきますがな。そうするとひとつと栄養分もグーツと出て行く。次にまた入って来る。入って来た血液はこんどは取り立ての新鮮な栄養分を持ってずーつと出て行きますよ。

そうすると調息法をやつて、空気はいっぱい入った、酸素も充分に入った、そうして今度は新しい取り立ての栄養分がどんどん来た。もう細胞は大喜び。そうするとね、細胞が一つ一つ元気になって強くなれば、その細胞で出来ている人間の体が元気になって強くなるのは当たり前です。ならなかったら奇跡です。

調息法で細胞の活性化を図る

それからさらにもう一つ、お腹にグツと力を入れると、出来立ての栄養分が来るから、また細胞が喜びますのや。しかもお腹に力を入れた、抜いたとやっていると、全体の血液の循環が良くなります。そうすると新鮮な栄養分、酸素を持った空気が今までよりもズー

ツと体中を回ることになります。というところは、どうでもこうでも丈夫になつちやうということですが。

そのほかに、この一つの細胞の生きている時間というのは、そう長くはないわな。何日かすると死にます。たとえば四〇日とする。するとすぐに新しい細胞が来てスツと補つてくれる。

ところがね、調息法をやつて、一つの細胞が元気になりますとね、ほかの人の細胞は四〇日で死んじまっても、こっちは四〇日たつても平気なんだ。五〇日までもずつと生きちやう。一つ一つの細胞が長生きをすれば、その細胞で出来ているあなた方の寿命が長くなるんだ。長生きしたくなくてもしちやうんだ。健康長寿。これが出来ちやう。簡単なことなね。

ところがね、まだある。ご婦人は骨粗しょう症こすしょうせいというのを知つて居るから。あなた方は一〇〇パーセントかかるから。昔はこんなことを知らなかった。骨がスカスカになる。男だつて年をとつてくるとなるんですけどね。そこで言われますよ、カルシウムの入った食物をとりなさいと。

カルシウムが抜けてゆくのは、骨の組織のカルシウムをつかまえている力がなくなるから抜けていくの。だからカルシウムを食べても、沢山入つてきた、ハイ沢山出ていった、それだけのことなの。

ところが調息法をやると骨の細胞が

みな元気になりますからね、カルシウムをなかなか放しません。

もう一つ、骨の細胞も死ぬの。死ぬと新しい細胞が出来てくる。そしてふさいでくれる。そこまでは一般の細胞と同じ。ところが年とつてきますとね、骨の細胞が横着になる。死んだぞ、ハイ行けぞ、と始めは行つたくせに、年とると、ああ、そうか、じゃこれから行こうか、うんうん、なんていつて。そこが行き着くまで空いていますね。

だんだん行くのが遅くなるの。死んだぞ、ハイ行け、いや、厄介なことぢやな、やれやれやれと言つてね、着くまで暇がかかりますね。

行つてくれるうちはまだいいの。死んだぞ、行けと言われて、わしゃもうやめた、行かん行かんと言う。そうすると、そこは一生空き家になるの。それがね、骨の全部に行き渡るんですからね。ただカルシウムが抜けていったのなら、骨全体をレントゲンで見ても薄くはなつても、ああいうポコポコの穴はあかないはずですよ。これは行かないセンセイが出来ちやうから、あんな空洞が出来ちやうんですよ。

あなた方の骨は、まるで砥石のようにカチツとしている。少し年をとつた人はおじいちゃんでもおばあちゃんでも軽石のようになってしまふんだね。そしてポキッと折れる。折れたらつなぎにくい。これはご婦人には非常に多いことです。まだいろいろありますが

ね。もう少し進めてゆきましょうね。
脳細胞の減少化を食い止める

今度のもっと大事なことです。さつき脳細胞は体の細胞とは違つて、もつとむつかしいと言いましたね。根本的に違つたところがある。肉体の細胞は骨であるが皮膚であるが、死ねば必ずあとから別な細胞が埋め合はせて行くでしょう。ところが脳細胞のセンセイは全くの横着者で、細胞が死んだあと誰も行かないの。ああ、そうかと言つてただけだ。お悔みにも行かないの。だからそこが空いちやつたりする。二〇歳のときがいちばんコンパクト。二一歳からもう減り始めます。

そうすると驚くなかれ、脳細胞のセンセイはね、一日に一〇万個落ちるんですよ、一〇万個。二〇歳のときがいちばんコンパクト。ちやうどつきたてのモチのようになってるんだが、だんだんだん細胞の間に隙間が出来てくる、食パンみたいにスカスカになつてくる。

そういう脳細胞の姿は避けることはできない。みんな誰もなるの。どんな偉い人でも偉くない人でも同じ。それが一つ。

もう一つ困つたことがある。それはね、あなた方が体を動かしても必ず酸素が要る。ところが脳細胞のセンセイは、頭蓋骨の中にきちんと収まってい

日本GAP第17回海外研修旅行

イスラエル 聖地遺跡の旅



企画/日本GAP 旅行手配/株式会社パルツーリスト

▲エルサレム全景 撮影/久保田八郎

★期間=1997年11月22日(土)→29日(土)(8日間) 費用=¥378,000

日本GAPは1979年夏に第1回海外研修旅行として「アメリカ・中米の旅」を実施して以来、94年まで16回の海外研修旅行を主催し、主として世界各地の古代の謎の遺跡や大都市を視察して多大の成果をあげてまいりましたが、不況のためにこの2年間は休止しておりました。しかし多数の会員の要望により、今年も第17回目の団体旅行の再開に踏み切りました。今回はイスラエルのイエス関係の遺跡を主体に旧新約聖書の世界の探訪を立案しました。ご存じのようにイエスは宇宙的な意味においてアダムスキーと密接な関連があります。私達は宗教とは全く無関係な立場で2千年前の偉人の足跡を訪ねて宇宙的な波動を感じ、遥かなる惑星に思い馳せて心身の浄化を図ろうとする意図のもとに企画しました。日本GAPの海外研修旅行でイスラエル訪問はこれが最後ですから、この絶好の機会をお見逃しなく多数ご参加下されば幸いです。

この旅行には株式会社パルツーリストの大ベテラン小林俊雄社長が添乗員として同行され、親身の世話をされますし、日本GAP久保田八郎会長が旅行団長として道中で説明指導をしますのに加えて現地では優秀な日本人ガイドさんが丁寧な案内を致します。したがって最高に素晴らしく楽しい旅行が展開しますのでご期待下さい。日本GAP会員、会員の家族や知人、本誌の読者ならばどなたでも参加可能です。歡喜に満ちた旅をお楽しみ下さい。(来年度のGAP旅行の目的地は未定です)

★日程

- 11月22日(土) 11:05に成田空港より英国航空機で出発。ロンドン経由で(市内には出ない)夜間イスラエルのテルアビブ郊外のベングリオン空港着。専用バスでエルサレム着。同夜宿泊(ホテルは一流)。
- 23日(日) 終日エルサレム市内見学。オリブ山から全市を展望。ふもとのゲッセマネ庭園見学。嘆きの壁。イエスが十字架をかついで歩いたピアドロローサ(嘆きの道)、磔刑地の聖墳墓教会と内部の十字架の跡、鶏鳴教会とその横に残るイエスが歩いた石段、その他を視察。エルサレム泊。
- 24日(月) エルサレム市内の他の遺跡やイスラエル博物館を見学後、専用バスでベツレヘムのイエス誕生地を見学。エルサレム泊。
- 25日(火) 死海方面へ出発。沿岸南側の標高400mの要塞マサダへケーブルカーで登り、2千年前の遺跡を見学。ここは西暦70年に約1000名のユダヤ人がローマ軍と2年間死闘の末、最後は全員自決した名高い場所。そのあと有名な死海写本が発見されたクムラン洞窟とクムラン教団の遺跡を視察。死海で海水浴。ここは高濃度な塩分のためにどんなカナヅチでも絶対に沈まない面白い湖。夜は付近のエンボケクで宿泊。
- 26日(水) 1万年以上昔の世界最古の都市エリコへ。超古代の都市跡があり、イエスもここで奇跡を行なった。ここから北上してガリラヤ湖へ行き、イエスゆかりのカペナウム、タベハの町を見る。湖畔の山上の垂訓教会を訪問。続いてガリラヤ湖畔のティベリアへ。ここでピーターズ・フィッシュというガリラヤ湖でとれる名高い魚の料理を賞味。ティベリア泊。
- 27日(木) ティベリアからイエスが少年時代をすごしたナザレの町へ。聖母マリアの受胎告知の場所を見学。続いてパルマゲドンという地名で名高いメジドの遺跡見学。さらにローマ時代やビザンチン時代の遺跡カイザリアを視察。地中海沿岸を南下してテルアビブ着。宿泊。
- 28日(金) 朝8時にベングリオン空港へ。英国航空機でロンドン経由で帰国の途に。
- 29日(土) 午前11:20成田空港着。お疲れさまでした。

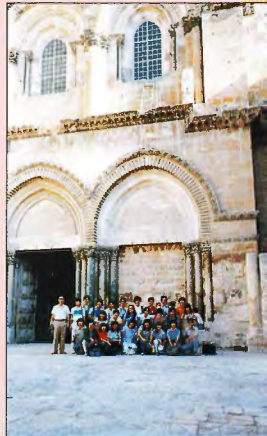
案内書 詳細案内書を差し上げます。下記へハガキでお申込み下さい。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511 日本GAP

説明会 第1回旅行説明会を8月24日(日)に都内新宿区で開催。会場等の詳細は案内書に記載。第2回目の説明会は10月26日に同会場で開催。



▲イエスが最後の晩餐を終えてゲッセマネの庭園へ祈りに行くときに歩いた石段。オリジナルの遺跡と言われている。この写真は1984年8月に実施した第6回海外研修旅行の第2次エルサレム訪問時のもの。 撮影/久保田八郎 (下の写真も)



▲イエス磔刑の地、ゴルゴタの丘に建てられた聖墳墓教会の入口。これも第2次エルサレム訪問時撮影。

て、一ミリも動かない。それなのに、酸素をずっと欲しがらるんです、体中の細胞よりもね。何十パーセントなんていうもんじゃありません。七倍欲しがります。

そうすると、いったい充分な酸素が行っているかと言うとですね、普通の人の場合は行ってないんです。皆さんももちろん酸素が不足していますよ。慣れているから分からないの。

ところが調息法をやってごらん下さい。今度は酸素が充分に行きますね、すると脳細胞は元気になるんです。そうして、一日に一〇万個落ちるはずなのが、六万個か七万個ですむわけ。それから残っている細胞そのものが強い。ところが一般の人はだんだん年とってきますと弱くなってゆきます。しかし調息法をやっている人の場合はそうならないんです、酸素が行くからです。ピンピンしますよ。だから物忘れしつたりしないし、ド忘れしないし。老人よ、おさらばになっちゃうね。

脳細胞には酸素が重要

そうすると、この場合は、脳のフランクシオン（機能）、つまり脳の働きが若く保てるだけじゃない、脳細胞の強さ、外からの悪い影響に対しても強いわけです。だから、どんな刺激がきても、酸素が充分に入っている脳細胞は影響を受けません。いちばん、あな

た方に端的に分かるのはストレスの場合です。一歩外に出てもストレス、家の中でもストレス。人間はストレスの中に囲まれているんです。そこでパチンコなんかでごまかそうとかするんですが、それはごまかしであつて、ちつともストレスの解消になっていませんがな。脳細胞は弱くなるばかりです。

あのね、馬。競馬の馬。充分に餌を食つてるからピンと張つて毛並みもいいでしょう。三割しか餌を食わされていない馬は、痩せてあばらが出てヒヨロヒヨロしてますがな、毛並みは悪いし。ドーンとぶつかられば、ヒヨロヒヨロとして尻もちをつくんですよ、あれは。

競馬の馬はしつかりメシを食つてるから、ドーンときたつて平気。それと同じです。

皆さんの脳細胞は、こう言っちゃ悪いけど痩せ馬。酸素を摂取してないんだから。その他にもまだ糖分や蛋白質などいろいろあります。それが足りないんだから。しかしそれにも慣れてきているから、こんなもんだと思つているの。

それと調息法をやつて、だんだん年とつてごらん下さい。頭の働きの違ふことが分かつてきます。

ストレスについてももうすこし述べます。これは大変なことなんですよ。というのには、ストレス学者は人間の病気の九〇パーセントはストレスが原因だ

と言っている。調息法によつてストレスよおさらばになったら、病気の原因の九〇パーセントはおさらばですよ。

ヒマラヤで驚異的な体力を 発揮

脳学者はね、こういうことを言っています。人間の脳細胞の七〇パーセントは眠つていて、働いているのは三〇パーセントだつて。その原因が分からないと言つています。

この学説は誤りです。脳細胞はみな働いているの。働いてはいるが、おのれの持つてある力の三〇パーセントしか出せないの。それはエネルギーが来ないからだ。つまり酸素が来ないからだ。そこを脳学者は知らない。

わしはよく知つています。なぜかという、ヒマラヤの四〇〇〇メートルの高所へ朝日新聞の主催でトレッキングに団体で行つたんです。わしはそのとき七六歳。申し込んだらダメと言われた。いちばん年上が五二歳。七六歳では話にならないという。しかしわしはねばつた。だけど主催者側は高山病が怖いからダメだという。実際、怖いです。高山病で沢山死ぬんですよ。案外簡単に死ぬの。

そこでこっちは少し工作をやつた。おれを必ず連れて行つてくれる。おれは必ずヒマラヤに立つという信念を強めた。そうしたら、いいよと言つてきた。ただし条件がある。若い元氣な青年を一人連れて来なさいと。そしたら許可しますと。わしにはそんな青年がないから、いませんとすると、ダメですと言つて、それでおしまい。つまり私を許可したのは、こいつはどうせダメだ、こうなるんだから（と言つて頭を横に倒す）。

そうしたら相手はこう言つた。シェルパは五〇キロ以上は荷物を背負いませぬ。あなたは六〇キロ以上はあるでしょうと言うんだ。つまり人間として連れて行くんじゃないの。荷物としてシェルパに背負わせて回ろうということなんだ。お慈悲だ。だが結局私を連れて行くことになった。

ところが慈悲で行つた私一人が高山病にならないで、みんなの看病をすることになったんです。診察したり手当をしたりね。隊長が一人、メンバーが一人。全部で一人一人いたが、わし一人が元氣で、あとはみな倒れた。

なぜか？ 私は調息法をやっているから酸素ポンベを吸つているようなものなんだ。なうんてことないね。そしてそのとき僕は脳細胞と酸素の関係がよーくいろいろと分かつたね。一人をいろいろと調べてね。こういうものかだね。体験しましたね。だからこういうふうには調息法の素晴らしさを強調できるんです。皆さんも大いにやつてみて下さい。

（以下、紙幅の都合により省略）

正心調息法に関する文献は左記に用意してあります。

真和会（〇三―三三六八六―一六〇五）

肉体を超えて大宇宙と一体化する方法 (5)

ジヨージ・アダムスキー／久保田八郎訳 〈アダムスキー講演集連載17〉

一九六〇年代にアダムスキーがニューヨーク州ビンガムトンの小集会で行った前号掲載の質疑応答の続き。人間の宇宙的な生き方と至福の道に至る方法を述べた最高の宇宙の真理が展開。この連載記事はアダムスキーに師事したアリス・ポマロイ女史が膨大な録音テープから原稿を起こしたもので、その英文原稿すべてが訳者に贈られて翻訳掲載権が与えられた(文中の傍点の部分はポマロイ女史の原文の指定に準拠した)。



●パロマー山腹の台地に設置したドーム付き15インチ反射望遠鏡を操作するアダムスキー。彼は天文学に造詣が深く、この望遠鏡で天体観測を行っていたが、UFO写真の撮影には携帯用の6インチ反射望遠鏡を使用した。 ©日本GAP

〈前号までの話の内容〉前世において戦争で戦死した人は、激しい憎悪や恐怖等の記憶を今生に持ち運ぶので、それらが転生してくると今生では反動的に乱暴な行為を働くようになる。多数の青少年の非行化の理由はここにあるという趣旨であった。

それで彼らは人間を単なる物体としか見ないために、過去世から持ち越してきた怒りの想念でもって、その物体(肉体)を虐待しているわけです。かつてロサンジェルスの非行グループに属していた数名の若者と私は話しあったことがあります。

私が、なぜそんなことを(非行を)しつづけるのかとたずねると、若者の一人は「どうせ人間なんてたいしたもんじやないんだ。ゴミみたいなもんだよ。ピストルで人間を撃つのも、そこいらのゴミ箱を撃つのも、たいして違いはないということさ」と答えたものです。

彼らのほとんどは同じように考えています。先の戦争中に敵を簡単に殺せ

るようになるために、そんな考え方を植えつけられて十分に訓練されていたのです。

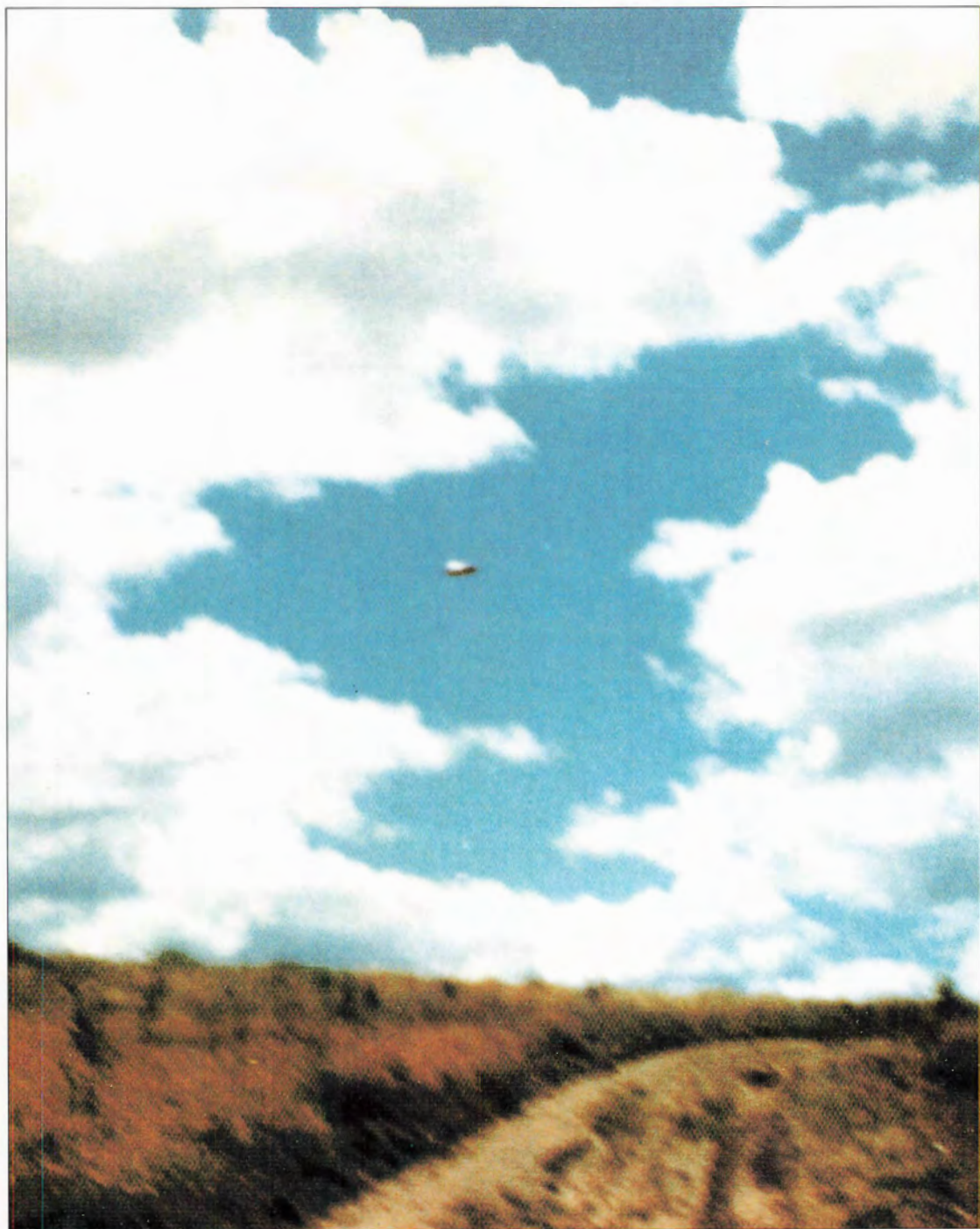
政府の怠慢の罪

問 政府には彼らに対して(今生転生してきた帰還兵達に対して)逆のこと、つまり彼らを元の状態に戻すための、いわば逆洗脳を行なう義務があるので、ありませんか。

ア ええ、そのとおりです。しかし政府はそんなことをしませんでした。その結果、「父親達の罪が子供達の上に、七つの世代に渡ってとどまることになる」という予言が成就されることになったのです。

若者達が戦場へ行って人を殺したのには彼らの過ちではありませんでした。それは年寄り達の過ちだったのです。年寄り達はさっさと戦争を始めておいて、自分達はどこかのオフィスにゆったりと腰をかけていました。

その結果、父親達はその罪が消えるまで、七つの世代に渡って高い代償を支払いつづけることになったわけです。



●ウルツブルクのUFO

1977年7月11日、西ドイツ（当時）、ウルツブルク郊外の畑の上空を飛ぶUFOをディーター・クロール氏が連続6枚撮影した写真の最後の6枚目。物体は上下がふくらみ、金属質で円形をなしており、上部はドーム状であったという。

©日本GAP

私達はこのような長期的な影響を見過ごしてしまう傾向にあります。私達はこれまでキリストの教えに従うように常に教えられてきました。もしそれに従っていたならば、こんな戦争を行なうことはけつしてなかったでしょう。でも我々はそれをやってしまいました。そのため、戦争によって起こってきた多くの醜悪な結果を見つづけることになったわけです。

この国が（アメリカが）防衛力を持つことは必要かもしれませんが、それは他のすべての国に関しても言えることです。

でも国同士がなぜ敵対しなくてはならないのでしょうか？

この地球世界に住む人々のすべてが全く同じ人間なのです。違ふところといえば、いくつもの国に分けられているという点だけです。

ただし金星その他の進歩した惑星には複数の国は存在しません。一個の惑星全体が一つの国として機能しています。

この次の大戦争は人類滅亡につながる

さて、そこで私達はいま大きな問題に直面しています。現在、この国の人々の八割が過去の二つの大戦争、つまり第一次と第二次の世界大戦によって大きな影響を受けています。人々はもともと家庭、学校、教会などで、人

類に対する強い忠誠と敬意を持つよう教え込まれていました。

ところが、あるとき突然、彼らは全く別な方向に導かれることになりました。その忠誠と敬意の理念から抜け出して、そのことを忘れるように命じられたのです。男達は軍隊に放り込まれ、殺人者——合法的殺人者としての訓練を受けることになったのです。

それはこの国に限定されたことではありません。そのためにいまは世界の人口の八割が、少なくとも精神的には合法的殺人者として訓練を受けることになっているんです。そしてもし新たにもう一つの大戦争が発生したとしたら、そのときは世界人口のおそらく一〇〇パーセントが、人々を合法的に殺したり虐待するための訓練を受けることになるでしょう。そんなことになったらどうなると思いますか？

そんなことになれば未来は真っ暗というしかありません。殺人者が殺人者を殺害するという光景がとめどなく広げられるでしょう。その行く末は人類の滅亡です。

そうなれば、別の文明の人間がやってきて、あとを引き継ぐしか仕方のないことになります。これは大昔に実際に起こったことなのです。これが初めてではないんです。

地球世界の無数の文明の興亡

実のところ、現在の文明以前に出現しては消えた文明は一万件以上にものぼっているんです。

問 この地球においてですか。

ア ええ、我々のこの文明が出現する以前にです。レムリア（ムーと同じ）とアトランティスも、みずからの手で自分達を滅亡させました。

アトランティス人達は今日でいうレーザー光線つまり殺人光線によって自分達を滅ぼしたんです。このレーザー光線は我々もいま持っています。

彼らは当時出現した敵対する勢力を壊滅させようとした。そのための手段としてレーザー光線を用いたんです。

しかしその光線は逆方向に働いて、自分達を全滅に追い込んでしまいました。その光線は彼らの都市やら何やらとにかくすべての物を破壊してしまいました。いくつもの大地震も発生させました。そのためにあらゆる災害が発生したのでです。

ときに我々もその光線の実用化に成功しています。

問 アダムスキーさん、聖書の次の一節をどう思いますか。「地上に残る人間は一人もいなくなるだろう。しかし選ばれた者達のために、その期間は短くされるだろう」

ア 当時の人類の精神の状態をもとにしてその予言を行なっています。当時の人類は確かにそのような事態の発生をうながす方向に進んでいました。ですからそれはある意味で正しい予言だったわけです。

しかし状況は変化しました。ですからその予言が成就する可能性は少ないと私は考えています。

たとえば「地は炎によって飲み尽くされるだろう」という予言があります。その可能性もすでになくなつたと言つてよいでしょう。

その可能性が皆無になつたと断言することはできないかもしれませんが、たとえその種のが発生したとしても、きわめて限定的なもの、または制御可能なものであるような気がします。

地球の大破滅をUFOが救った！

実は大衆は何も知らされていませんが、アメリカが大気の上層部に打ち上げて爆発させようとした核弾頭によって、地球は危うく火の海に包まれるところだったんです。

二年程前（訳注IIこの講演集の原文の編集者アリス・ボマロイ女史による注ではおそらく一九六二年だろうという）、アメリカはその核弾頭で大気上層部の水素の層に危うく点火するところだったんです。そんなことをすれば地上の人間はみな七面鳥のように丸焼

けになっていたのでしよう。地球全体が真つ黒焦げになったはずです。地球自体は残ったでしょうが、その表面は完全に焼きつくされ、一面の灰と化していたにちがひありません。

ところが、その巨大な核弾頭の打ち上げ準備がとつたとき、それは当時のケーブカナペラル基地、今のケーブケネディー基地ですが、そこには軍の要人達がすべて集合していました。彼らは「アメリカはこの分野でソ連に遅れをとっている。早く追い越さねばならぬ」などと話しながら、その打ち上げ実験の成り行きを見守っていました。

その爆弾は十階建のビルほどもある巨大なロケットの上部に設置されました。それが予定どおりに爆発すれば我々の滅亡は避けられなかったのです。

ついにそれは打ち上げられました。ロケットが上昇を開始しました。もしそれが所定の高度に達したならば——。そのとき突然一機のUFOが現われて信じられないようなことをやっています。核弾頭をまるでオモチャのように扱ってアツというまに持ち去ったんです！

こうして悲劇的な事態の発生は回避されました。

この様子を地上で見ていた軍関係者の驚きは大変なものでした。「私を早くここからつれだしてくれ！」

私はこの目ではつきりと見た！
でもまだ信じられない。忘れてしまいたいんだ！」

みんなはいつせいに叫びます。その光景は彼らにとつて全く信じられないものでした。

と同時にそれは（とアダムスキーは真剣な面持ちでゆつくりと語る）彼らにUFOに対する畏怖のフィーリングを植えつけることにもなったんです。

彼らはそれに対する防衛力を全く持たないんです。昨夜の私の講演の中で読み上げた情報からも明らかのように私達はもしUFOから攻撃を受けたとしたら、それに対していかなる防衛もできないんです。

しかし彼ら異星人達が地球を攻撃してくるようなことは絶対にありません。事実、彼らがああとき核弾頭を持ちさつてくれなかったら、この世界全体が火の海になっていたんです。

結局、もし地球人類が滅亡するとしたら、それを発生させるのは神ではなくて地球人類自身にほかなりません！

目覚めつつある若い人々

問 私、あの予言は、文字通りにこの世界が火で破壊されるといふのではなく、マイナスの考え方やその他の地球的な想念のすべてが愛の火によって焼きつくされるという意味ではないかと考えているのですが——。

ア その可能性も充分あります。実際、この世界の人々はいま目覚めつつあります。もし皆さんが私のように世界中を歩いて講演を行なったならば、ある重要なことに気づくはずですよ。

私は人々、特に若い世代の人々から沢山の手紙をもらっています。彼らは明らかに目覚めつつあります。互いに協力しあつて、より良い物事を追求しようとしているんです。

彼らは素晴らしい人々です。すでに私は彼らからさまざまな援助を要請されています。彼らは都市から離れて彼ら自身の手で理想的な共同体を作りたとも考えています。現在そのような動きがあちこちで発生しています。

ですから、おそろく次の世代のそのような人々は、我々が作り上げてきた世界よりもずっと素晴らしい世界を作り上げることになるでしょう。その歩みはすでに始まっているんです。

古い世代の人々はまもなくこの世界から去らねばなりません。それは若い世代の人々にとつての障害物が減少することを意味するんです。古い人々は近々この世界を去らねばならないんです。

未来は若者にかかっている

こんなこともありました。私がパロマー大学へ行つたとき、その学生達は私の講演に目を輝かせましたが、教

授達はそうではありませんでした。彼らは私みたいに白髪の年寄りで、私が演壇に上がつて話し始めると、いつせいに私に冷たい視線をなげかけてきました。私はもう少しで凍りついてしまうところでした。

そのとき私は子供の頃に聞いたある金言を思い出したんです。「若者も死ぬことがある。しかし年寄りは死なねばならない」という金言です（会場に笑いが起こる）。そこで私はそれを話しました（会場爆笑）。

結局、障害物はじよよに排除されることになるんです。私はべつに年配の人々はダメだと言っているのではありません。彼らは新しいアイデアにかなかな心を開くことができない。ただそれだけのことです。

こんなこともありました。二年ほど前に私はマーガレット・チェイス・スマイスに会うために彼女のオフィスを訪れました。私が首都へ行つたのはそれが最初です（訳注II マーガレット・チェイス・スマイス女史は当時の有名な上院議員。アダムスキーを支持していたといわれる）。

上院に通じる階段は、下院に通じるそれよりも高い位置にあります。私がある大佐と中尉に導かれて上院に向かうとしていきますと、下院の方から人々の群れが歩いて来るのが見えました。ハゲあがつた頭の男や白髪の男が大半でした。私はとつさに国会を見

学に来たどこかの団体かと思って、連れの軍人達にたずねたんです。

「あの人はどういう団体なのですか」

「議員の方です」

私は思わず口走りました。言つてはいけないことが、つい口をついて出てしまつたんです。

「えつ、彼らは国会議員なのですか。しかし知的な顔が一つありませんね」(笑)

これは確かに不用意な発言だつたと思います。だけどそれは真実をついていたとも思います。実際、彼らは本当に年寄りばかりでした。ほとんどが八〇歳にもなろうとする頭の固そうな連中ばかりなんです。少なくとも私にはそう見えませんでした。

私達はいま科学の時代を生きています。世の中の動向や状況は刻一刻と変化しています。私達はそれに対応し得る柔軟な鋭敏な心を持つ必要があります。そんな時代の国会にあんな連中がいるんです。彼らはいつたい、この国のためにどれほどの事が出来るのでしょうか。誰かが新しい有望なアイデアを持ち込んでくても、彼らはそれに関しても知りません。そこで彼らは誰かにたずねます。それでも足りず、別な誰かにたずねます。しかしそれでもなおも理解できない事が沢山あります。そしてその頃までにはすでに三〇四カ月が経過しています。

しかしソ連は同じアイデアを着々と実行に移しています。そのために我々はまたも彼らに遅れをとるということになるわけです。

私達はいくつもの優れた頭脳の持ち主を持っています。しかしそれらの頭脳によるアイデアの実行に議会がブーサインを出すまでには、この国では果てしない時間がかかってしまうのです。私達は議会に若い人々を送り込む必要があります。アイデアを急速に理解し実行に移すことの出来る若くて柔軟な心を持った人々をです。

年長者達はこれまでに素晴らしい仕事をなしてきてきました。それに関してはいかなる疑問の余地はありません。彼らは少なくとも、この社会を彼らが生まれた頃よりもはるかに暮らしやすい世界にしました。しかたどえさうであつても、もし彼らが若い世代の人々がめざしている進歩を妨害する権利まで手にしていると考えていると、それは大間違いです。

彼らのとても多くが、これまでにつちかつてきた影響力を用いて、さまざまな場所でその不当な権利を行使しています。窮屈な宗教観や古くさい習慣の数々がその背後に存在しています。しかし我々は常に進歩を目指さなければなりません。

私達はこの世界にいるあいだ若者達を後押しし、彼らの歩みを早める手助けをする必要があります。そして彼ら

を可能な限り良い状況の中に残して世界を立ち去らねばなりません。

司会者 アダムスキーさん、私達はいま素晴らしい時間を過ごさせて頂いておられます。もしこの時間が永遠に続いたならば、どんなにか素晴らしいことでしょう。本日はおいで頂いて心から感謝しています。

ア いや、恐縮です。その言葉に対するお返しといつてはなんですが、私はここに私の親愛なるフイーリングと、私が知っていること、そして信じていることを残しておきます。

私は、誰でも自分自身よりも偉大な何かの存在を信じていない人間は、この世界に一人もいないと思つています。いかなる人間にしても、皆さんほどではないにせよ、自分自身を支配して生かしている何らかのパワーの存在を、少なくとも心のどこかでは信じているはずですよ。

スペーススピールの援助について

問 スペースピールは、今後も私達を援助してくれるのでしょうか。

ア そうですね、まずこのことを忘れないで下さい。かりに皆さんが誰かに援助の手を差し伸べようとしています。しかし相手は自分で自分自身を意欲的に助けようとする意思を持たないならば、ほとんど効果はありません。(訳注)これは自分が何もしないでい

てスペースピールからの援助を求めただけでは彼らの援助も効果がないという意味。つまり援助を要請するのならば、まず自分で自助努力を行なうのが必要だというのである。これは「天は自ら助くる者を助く」というスマイルズの自助論に出てくる西洋の諺にも通じる。

この一〇年ないし一二年の間に彼らスペースピールは私達に多くの知識をもたらししてくれました。それはいわば私達の食べ物であり、その量は今後一〇年ほどにわたって私達を養うのに十分な量だといえるでしょう。

私達が最初の食べ物を食べ終わらないうちに、新しい食べ物が増え、それに並んだとしたら、とても食べきれずに多くの貴重な食べ物が無駄になってしまうでしょう。その意味で当分の間は新しい知識的援助はもたらされないと考えるのが妥当だと思います。

しかし私達が、彼らがこれまでで与えてくれたものを利用して努力するならば、その努力に対する援助は折にふれて必ずもたらされるはずですよ。

現在の宗教について

問 いまの宗教について何かご意見はありますか。

ア この問題に関して教会は大きな責任を負っています。しかし私達の宗教はじよじよにはありますが、良い方

向に向かっているような気がします。実際、ある教会はすでに重要なメッセージを発しておりまして、私はそれを録音したテープを持っていきます。それはいまホテルに置いてあるんですが、その中で教会は『宇宙の司祭』達の存在を認めているんです。

教会側は直接に異星人の存在を認めるとは言っていないんですが、それを『宇宙の司祭』という言葉で暗に承認しているんです。こんなことは過去に一度もなかったことです。

しかし何と呼ぼうと、言葉の上では全く関係ないことです。たとえば『天使』とはいったい何でしょう？

それはメッセンジャー以外の何物でもありません。特定のメッセンジャー、または情報を伝える者、それがメッセンジャーです。司祭も同じ役割を果たす人物であり、牧師もそうですし教師もそうです。この人々は異なった呼び名で呼ばれていても全く同じ事をやっているんです。

特定の呼び名が特定の教会あるいは宗教団体に対してより良く適合し、その呼び名を用いることで人々をより良く導けるとしたら、それは素晴らしいことではありませんか。私は彼らがいま実際に起こっている物事を一つまみ真実を―信者達に伝えようとしている限り、その方法に大賛成です！

教会が真実を語る努力を始めたならば、この問題（宇宙的な問題）に対す

る人々の抵抗はすみやかに薄れてゆくことになるでしょう。ただしこの近くでも見かけた〇〇〇の証人達のように（私が伝えた）この種の宇宙的なあらゆる情報が悪魔から来るものだと言張している宗教団体がまだ沢山あるということも動かしがたい事実です。

反キリストとは誰を意味するか

たとえば、これがおそらく今日の私の最後の話になるでしょうが、ブラジルのある牧師が私にこんな内容の手紙をよこしました。

「私は牧師を退職したばかりの男です。私はいまとても裕福です。もしあなたが、あれらの人々が（スペーススピールが）キリストの名のもとで我々（地球人）のために良い事をしているというのを私に納得させたならば、私は自分が蓄えたお金をすべて投げ出して、そのことを大々的に宣伝するつもりです」

しかし彼は次のようにつけ加えるのを忘れませんでした。「ただし、私には彼らが（スペースピールが）反キリストだという強い感じがあります」

そして彼は私の返事をテープに録音して送ってくれと言ってきました。

私はその要請を聞き入れました。ただしその中で私は自分のことは何一つ語りませんでした。あらゆる材料を聖

書の中から選び出したんです。それは次のような内容です。

（訳注II アダムスキーは少年時代からニューヨークの大教会の伴僧を勤めながらキリスト教神学を学んだ聖書専門家でもあった）

「反キリストとはいったい何なのでしよう？

イエスは『あなたがたが他人からしてほしいと思うことを他人にしてあげなさい』と語りました。もしあなたがそれと違うことをしたならば、そのときあなたは反キリストです。

またイエスは『片方の頬を打たれたら、もう一方の頬を出しなさい』とも言いました。もしあなたがそれと違うことをしたならば、そのときあなたは反キリストです。

さらにイエスは『あなたを嫌う人に良い事をしてあげなさい。あなたの敵をも愛するのです』とも語りました。もしあなたが敵を憎んだとしたら、そのときあなたは反キリストということになります」

私は以上のような事を次々と指摘したので。そして彼ら（スペースピール）が反キリストだとはもちろん言いませんでしたし、彼らがキリストの使いだとも言いませんでした。彼らがキリストをどのように評価していたかということさえ語りませんでした。

私はいまお話ししましたように、聖書の記述をもとにした議論に徹したの

です。そして最後にこう言ってしまうことができました。

「さて、あなたは誰が反キリストだと考えておられるのですか。あなたがおっしゃる反キリストとはどういう意味なのでしょう。この惑星（地球）にいる私達（地球人）こそが反キリストではないのでしょうか。いったい地球人はどんな生き方をしているのでしょうか。彼らは一方ではキリストを讃え、他方ではキリストの教えに全く反することを言っているではありませんか」

このテープを受け取った後、彼は沈黙を決め込みました。何も行なおうとは思いません。知らんぷりを決め込むつもりでした。

ところが誰かがそのテープを彼の所から無断で持ち出して、あるラジオ局へ持ち込んだものですから、それが放送されてしまったんです！

そのため彼は地獄を味わうことになってしまいました（笑）。

その放送は聴取者達の心を打ちました。と同時に彼の無知に対する非難の声がわきおこったんです。

誰が反キリストであるかを知るのには簡単なことです。人間が信じている事と、口にしてる事と、実際に行なっている事を比較するだけで、それはすぐに判明します。実に簡単です。

自分が急速な進歩をとげる方法



●パロマーガーデンズ跡

ジョージ・アダムスキーは1950年代、カリフォルニア州南部のパロマー山腹にある標高約1000mの広い台地を開拓し、ここを拠点にしてメリー夫人その他の弟子達とともに暮らした。写真は筆頭弟子であったアリス・ウェルズ女史がレストランを経営していた跡で、この収入が一族の生活を支えた。後にアダムスキーは山を降りて、ビスタの町へ移住したが、このレストラン跡の敷地をアダムスキーの弟子であったインディアン女性が買い取って、写真に見られるようにコンクリートを敷き、ここを記念公園にして永久に残すことにした。アダムスキーの住宅はこの右側に隣接して建てられていたが、現在は管理人の住宅に建て替えられている。右後方に見える小さな小屋は、元アダムスキーが建てたもので、下半分の石積みはアダムスキーが積み上げた当時のままに残っているが、上の木造部分は後に何度も建て替えられて、現在は洗濯場になっている。

この台地はアダムスキーがパロマーガーデンズと名づけていたが、現在はオウク・ノル・キャンプグラウンドと呼ばれて、山頂の天文台へ車で見学に行く旅行者達の有料キャンプ場になっている。写真に見える樫の木群はすべてアダムスキー居住当時のもの。久保田八郎が最初にここを訪れたのは1975年11月であったが、当時から見れば樫の木達はすいぶん大きく成長している。75年に久保田がアリス・ウェルズから聞いたところによると、土地を買い取ったインディアン女性はきわめて高貴な婦人で超能力者であったという。当時、彼女は白人の夫君とともにサンディエゴに住んでいると聞いたけれども消息不明。もっか久保田が調査中。

撮影/久保田八郎 1997年1月2日 フジGSW・プロビア



さて、本日、私はずいぶん多くの事を語りました。テープに録音しておられた方もいらっしゃると思いますが、すべてを頭にたたき込むのは困難なことかもしれません。しかし私が今日お話ししたかったことは、とても単純なことです。

まず自然をもっと注意深く観察して下さい。より以上に意識的になって下さい。生命に関する知識を深めて下さい。少なくとも、そうしようとする意思を持ちつけて下さい。

柔軟な心を持つことです。自分自身に関する事、それと自分自身の周囲で発生していることに、より以上に敏感になって下さい。

自分を、自分だけの世界の中に没入させないことです。自分だけの小さな世界ではほとんど学ぶことは出来ません。

万物をもう少しじっくりと観察しなさい。あらゆるものを、その背後に存在する叡知に常に思いをめぐらしながら、観察して下さい。

以上のようにすれば皆さんはやがて自分が思いがけない速度で進歩していることに気づいて、大いに驚くことになるでしょう。

(アダムスキー講演集の「肉体を超えて大宇宙と一体化する方法」はこれで完結。次号からは別な題名で講演集連載を継続)

UFO contacteeバックナンバー主要記事

★従来102、103、104号は品切れでしたが、某所より新品在庫品が各10部ずつ出てきましたので、101号より最近号までそろっています。バックナンバーのみ1冊¥700。送料不要。代金後払い可。ハガキに号数、住所、氏名、電話番号を明記して日本GAP宛て注文下さい。101号から123号までの主要記事目録入用の方はハガキでお申込み下さい。

No.136 1997年(平成9年)1月25日発行 ¥700

愛と救いの異星人交信<2>——久保田八郎
大宇宙の無限の力による長寿健康法——塩谷信男
反復思念とイメージ法で奇跡を起こす！——会田晋一郎
誤った宇宙論とアダムスキーの正当性——小山洋一
江戸川区のUFO——大根田匡史・岡田茂
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完)——G・アダムスキー

No.135 1996年(平成8年)10月25日発行 ¥700

愛と救いの異星人交信<1>——久保田八郎
イエス出生の謎を探る——遠藤昭則
アダムスキー哲学を実践して奇跡的に病気が全快——西坂安信
オレンジ色の光体を目撃——堀下一郎
東京上空の細長い物体——藤原敏子
素晴らしい宇宙哲学講義——佐藤 彰
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(3)——G・アダムスキー

No.134 1996年(平成8年)7月25日発行 ¥700

米政府が隠すUFO問題の驚異的真相——久保田八郎
真実であったアダムスキーの体験——G・クレイトン
秋田で巨大円盤を目撃！——加藤純一
東京タワー上空の大母船——遠藤昭則
ロズウェル事件の真相はこれだ
コンピューターによるUFO写真鑑定への疑問——遠藤昭則
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法——G・アダムスキー

No.133 1996年(平成8年)4月25日発行 ¥700

月は異星人の基地だった——久保田八郎
私の宇宙哲学実践とUFO目撃——加藤純一
懐疑論者から支持者に転向——J・ローリーノ
アダムスキー哲学と波動感知法——林 国宣
創造のための宇宙哲学——佐藤 彰
宇宙の夢とUFO目撃——吉川美香
カルナの意味——林寺正俊
東京大地震は近未来に発生しない——秋山真人
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法——G・アダムスキー

No.132 1996年(平成8年)1月25日発行 ¥700

別な惑星の文明と創造性——秋山真人
イエスの時代を透視する——遠藤昭則
奇跡を起こすイメージ療法——原 永倉
宇宙船の形態に関する一考察——遠藤昭則
アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学——アリス・ポマロイ
好評、名古屋市の講演
東京造形大学で講演

No.131 1995年(平成7年)10月25日発行 ¥700

アダムスキー問題と日本GAP——久保田八郎
ワシントン、ニューヨーク両市でUFOがひんぱんに出現！——加藤淳一
私もワシントン市でUFOを見た！——清水 正
カイパーベルトはアダムスキーの主張を立証するか——植木淳一
アダムスキー大会を思う——岡田茂/西川太/大根田匡史/加藤路徳
熱烈な呼びかけに応えたUFO——石井一江
私のUFO目撃と宇宙的な生き方——忍田裕昭
宇宙時代の夜明け——村上博一
人間の肉体・意識・テレパシー原理——G・アダムスキー

No.130 1995年(平成7年)7月25日発行 ¥700

M氏の「UFOと異星人」体験——久保田八郎
アダムスキー型UFOの飛行原理を解明——遠藤昭則
超能力者ディナの驚異的パワー——久保田八郎
異星人女性との出会い——佐々木八郎
スペースビートルを見かける私——原垣内良子
透視・臨死体験・不思議な女性——千葉福造
白山のUFO——沼倉孝彦
父と従兄が「UFO」目撃——高橋克彦
人間の肉体・意識・テレパシー原理——G・アダムスキー

No.129 1995年(平成7年)4月25日発行 ¥700

地獄の大地震からの奇跡的脱出——平塚和義
大地震を前夜予感した私——西村悠子
偉大な教訓となった大地震——田辺健司
ロズで見かけた異星人女性——加藤純一
アダムスキーの大地を訪れて——黎明会有志
巨大母船、安比高原に出現！——秋山和広
サイコメトリーによる書物の質の感知法——林 国宣
UFOの速度・肉体と魂・
真の科学・長寿法——G・アダムスキー

No.128 1995年(平成7年)1月25日発行 ¥700

アダムスキー・永遠の真実と栄光——ダニエル・ロス
わが母の驚異のUFO目撃——ミシェル・ジルガー
総会の日にUFO出現
那須高原で巨大母船出現！——堀江健一
ダニエル・ロス氏宅訪問記——久保田八郎
あなたもオーラが見える——遠藤昭則
予知能力を持つ土星人女性の援助——G・アダムスキー

No.127 平成6年10月25日発行 ¥700

UFO出現の国—メキシコ——久保田八郎
ロズウェル事件とMJ12文書——坂本貢一
UFO目撃と不思議体験の旅——4名執筆
私もアダムスキー型円盤を見た！——田口邦雄
UFOとオーラと想念——山崎和子
奇跡的に難病を治す方法——久保田八郎
異星人とUFOの真相(2)——G・アダムスキー

No.126 平成6年7月25日発行 ¥700

驚異の瞬間移動とUFOの超低空降下——久保田八郎
UFOを頻繁に見る私のカルマ(2)——溜池みゆき
私も母船を見た！——津田篤孝
ムー大陸から見た原日本人——澤入達男
昔のUFO目撃の思い出——橋本恵一
異星人とUFOの真相(1)——G・アダムスキー

No.125 平成6年4月25日発行 ¥700

UFO、デザートセンター上空を飛ぶ——久保田八郎
私はアダムスキー型円盤を至近距離で見た——大野義和
UFOを頻繁に見る私のカルマ——溜池みゆき
不思議な予知透視——米川宣雄
突然出現した不思議な人間——千葉敏江
生命と物質と超能力——伊藤隆史
異星人はなぜ地球へ来るのか——G・アダムスキー



1ST GAP-JAPAN FUKUYAMA BRANCH CONFERENCE

福山支部大会

第一回



全国の日本GAP会員の皆様におかれましては、お元気で活躍のこととお喜び申し上げます。福山支部が発足して1年半が経過しましたが、ついに記念すべき第1回福山支部大会を来たる5月に開催することになりました。久保田先生を福山市にお招きして宇宙的な素晴らしいご講演を拝聴し、高次元なフィーリングを充電しようではありませんか。特に中国・四国地方にお住まいで久保田先生にお会いしていない方々には絶好の機会です。ぜひご参加を！ 大会、夕食会、宿泊はすべて同じ建物を利用しますのでたいへん便利です。予約は早めをお願いします。支部一同、心からお待ちしております。

福山支部代表 森田雅則 (なつめだ まさのり)

■支部大会 (予約不要)

—プログラム—

13:00 受付開始
 13:30 支部代表挨拶 森田雅則
 13:35 講演「宇宙哲学で良い運命をつくる方法とアタムスキー問題その他」 久保田八郎先生
 15:00 全員記念撮影/休憩
 15:30 質疑応答
 17:00 閉会

- 日時** 1997年(平成9年) 5月25日(日)
 13:00→17:00
- 会場** 広島厚生年金福祉センター
 「サンピア福山」 柵欄(せんだん)の間
 TEL 0849-21-3131
- 交通** JR福山駅からタクシーで約7分。
 JR福山駅前の中国バス1番乗場から「駅前一田中橋經由一車庫前」行きバスで10分、緑町バス停下車、徒歩1分。
- 会費** ¥3000 (全員記念写真代¥1000 は希望者のみ別途納入)
- 夕食会**
会場 「サンピア福山」 竈(とも)の間
 18:00-20:00
- 会費** ¥6000
 (要予約。下記を参照)
- 宿泊**
場所 「サンピア福山」
料金 シングル¥6000 ツイン¥8000 (サービス料、消費税は別)
- 予約法**
 翌日は平日のため観光は行ないません。
 夕食会、宿泊希望者は八ガキに住所・氏名・電話番号、宿泊日、シングル・ツインの別を明記して下記へ4月30日までに申込み下さい。
 〒729-31 広島県芦品郡新市町戸手1144-3
 森田雅則 (なつめだ まさのり)
 TEL 0847-52-6306

※注意 5月の月例セミナーは中止します。

福山支が発足して以来早くも1年半。充実した同支部に当然の機運が熟して第1回の大会が開催されることを大喜びしております。福山には熱意のある会員がなぜか多くて、特殊な宿命をもつ人達が結集しているような印象を受けます。まるで2千年前のエッセネ派の再来を思わせるようなこの集団からご招待を頂くのは非常な光栄です。特に支部代表の森田君は傑出した人物であることを私が保証します。大会では精一杯頑張ります。愉快にお会いしましょう。

日本GAP会長 久保田八郎



Letters

ユーコン広場



偉大なアダムスキー哲学

沖繩県 早川祐夫

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

久保田先生が長年苦勞されてジョージ・アダムスキー氏の意思を継承され、アダムスキー哲学を翻訳されて、私達日本人及びGAP会員に知らせてくれたのなら、私達は「人間とは、人生とは」と自問自答することもなく、スペースブラザーズが存在すら知ることなく、肉体人間の欲望、習慣、エゴに支配されて朽ち果てるどころでした。今は感謝の気持ちで一杯です。

今こそジョージ・アダムスキーの忍耐強さ、イエス・キリストの謙虚さを学び、「宇宙哲学」「生命の科学」を同胞に伝えたいと思います。特に新アダムスキー全集第八巻第一部第二章の「黄金の門」は、愛と勇氣によって開かれれば宇宙の意識と一体になる方法が簡潔に述べてあり、全集の中でもアダムスキーが一番伝えられたことだと思います。何度読んでも感銘し、生きた勇氣がわいて、謙虚に忍耐強く純粹に生きたいと決心を新たにさせます。そして現在は三つのコントロールを学習中です。一、感情のコントロール。二、感覚器官のコントロール。三、肉体人間の欲望をコントロールすることの三つです。

また同胞にアダムスキーの真実を伝えるために、自分自身を向上させ、人々の模範になるよう日夜勇氣を奮

い立たせています。そして常に良い想念を発するように心がけています。その結果として私の友人、知人、会社の同僚、家族が少しずつではあります温かくなり、またGAP会員でない人々からGAPのことを尋ねられたりして話題になります。ときには私がいつも背広につけている会員バッジを興味深そうに見る人も何人かいます。

「地球人類すべてに『無限なる方』の祝福がありますように」

終わりに、先生にはお体を自愛されて、いつまでも私達を御指導くださいませ。

久保田先生に感謝

長野県 沖山 洋

有難うございます。本当に有難うございます。宇宙的な波動を創造し、ここまで維持できるのは本当にすごい事なのだ、先生の宇宙の意識に対する信念は本当にすごい事なのだと思ふ次第でございます。先生の光り輝く未来をお祈り申し上げます。

ユーコン誌で凄い活力が湧く

北海道 佐藤史朗

最近あらためてアダムスキー哲学の偉大さを感じています。ジョージ・アダムスキー氏の顔写真を見ただけで涙が溢れてしまいます。

ところで彗星が地球の軌道すれすれに飛来しているようですが、今の地球人を見ると、そのうち巨大彗星が地球に衝突して、過去に恐竜が絶滅したように天変地異が起こるのではないかと不安に思いますが、会長先生と秋山眞人氏の言葉を信じてプラスの想念に切り替えています。

ユーコン誌を読むと、もの凄い活力が湧いてきますが、会長先生のエネルギーはどこから湧いてくるのだろうかと思惑でたまりません。

魂を覚醒させるユーコン誌

鹿児島県 曾我部勇人

ずいぶんご無沙汰致しました。いづぞやは例の一件にてご迷惑をおかけしました。その後は支部会員の面々も相応に反省をし研鑽をしております。すべての経験する環境は自分の心の反映だと冷静になれました。明快な哲理なのですが、多くの時間の上に築き上げられてきました。日本GAPの信頼性と展望性に驚かされるような流れには、やはり冷静にはおられませんでした。

その後の記事の内容に、従来の地味ではあっても真実の波動がもたらしてきたよう懐かしい思いさえ致しました。毎回、号を重ねることに魂を覚醒させてくれます。各記事に故郷へ帰つたような心の落ち着きを覚えます。

左の頬をぶたれて右の頬を差し出すような聖人君子の段階ではありませんが、地球よりも進歩している火星の人々がその成長レベルに少し達していないとのアダムスキーの論説に、変に自分を納得させている始末です(中略)。

いつも明るい完成された人格者と目標を抱くことは大事ですが、良きマリヤ人を振る舞うことは、その容易なことではないと自分に関しても思えたら、逆に他人に寛容になれるようになりまし。不完全な欠けた存在だから地球で学習しているんだと思えば心が楽になってきました。その不完全な創造物が一歩ずつ完成に近づくと、私にはかかずの指導者が現われました。その中の大きな柱がやはり日本GAPの波動であり誠実な導きでした。これからは宇宙のカルマを共有してゆく人々にとつては不可欠な存在だと思えます。日本GAPはこの地球の未来をにぎっていると思しても過言ではないと思います。純粹な情熱を持つた人々のもとへは純粹な叡知から正しい知識がもたらされると思っています。

素晴らしいユーコン誌

東京都 高橋三男

先生の毎回の「意識の声」は魂の琴線に触れ、いびつな世俗的な自分をよく矯正して、今日の自分を造って下さりました。本日に支部代表とは名ばかりで、さほどの影響力もない私ですが、亡き鶴田氏の展望を加え、少ない人数の鹿児島支部ですが、今後共ご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

ユーコン誌で真実を知る

神奈川県 矢嶋輝夫

私はあまり熱心な会員とは言えませんが、一言申し上げたく筆をとりました。「ユーコン広場」に掲載して頂ければ幸甚です。

UF0に興味があり、最初に買って読んでいた雑誌が「UF0と宇宙」でした。そのころは久保田先生が経営されていたユニバーシ出版社発行とは露知らず、ただ好奇心だけで読んでいました。

その後、宇宙人やUF0に関する本が出るたびに買い求め、むさぼるように読みましたが、読めば読むほどいろいろな説があり、何が何だかわからなくなりました。一〇年前になりますが、ちょうどその頃、ユーコン誌に出会い、以来

ずっと愛読しております。そしてアダムスキー氏のことを知れば知るほど、真実の人だったことがよくわかりました。「UFOと宇宙」で宇宙のことに目覚め、「ユリコン誌」によって真実を知り、久保田先生に導かれていたような気がいたします。今後ますます日本GAPの活動が広く多くの人に受け入れられますようお祈り致します。

暖かい雰囲気の中 東京月例セミナー

東京 岸本 悟

二月の東京月例セミナーでは相変わらず素晴らしい講演をうかがうことができて嬉しく思っています。考えてみますと、私が日本GAPに入会させて頂いた頃は、まわりにGAPの仲間は誰もおらず、機関誌や支部報がGAPとの唯一の接点でありました。それだけに機関誌や

◀「ヒーリング写真」「パワー」。これを見つめれば無限のパワーが出るという。 撮影/金丸直司

支部報に載っている会員の方の写真を見ては「この人が○○さんだ。この人が××さんだ」なんて、あこれを見ていたものでした。そして超能力やUFOのこと、他の惑星の方々のことばかりを考えていました。そして自分のレベルの低さを感じ、自分を向上させることばかりを考えていました。

そのうち東京に出たいという思いも沸き起こってきて東京で暮らすようになり、写真で見ていた人達にお会いできる喜びで一杯でした。

ところが変になれてしまったからでしょうか、気がつくとい人の不平不満ばかり言っている自分になってしまいました。そこで自分を建て直すためにあえてGAPの会合に出席しないことにしました。今までGAPをやめたことでもあります。ある方に変な迷惑をおかけして月例会に出席しなかつた時期もありました。その後、月例会にもどつたとき、これからまた頑張ろうという思いが強く強く沸き起こつたものでした。

実は今回もこれを意識して自分を変えるための原動力にしたいと思つて、あえてこの方法を選んだのでした。今年になってから東京月例セミナーに出席させて頂くようになったのですが、一人でいるときには感じない暖かなヒーリングを感じて新鮮な気持ちになりましたので、欠席は二年もかかってしまいました。とりあえずは成功したように思いますが、今後この指導のほどをよろしくお願ひいたします。日本GAPの益々の発展と先生のご健勝を祈念申し上げます。

永遠の転生を知る喜び

兵庫県 西村悠子

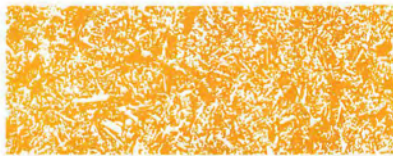
久保田先生にはご家族おそろいで明るい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。クリスマス、お正月と一人で過ごすのは寂しいであろうとの娘達の優しい心遣いで、明るく賑やかな年末年始をアメリカで過ごして帰宅いたしました。先生のお便りが届いておりました。超御多忙でいらつしやる先生が、その上、暮れのおせわしい時、それもクリスマススイヴにお書き下さつた事を知り大感激でございました。本当にありがとうございます。

先生が永遠の転生について書いて下さつた所を読んでおりますと、亡き夫への思いが重なって、不思議な心の安らぎが感じられました。転生を知らなため地球人は見えない世界が信じられず、様々な苦悩を抱いて一生を終える人が多いと思います。人間が今生の生命を終えるという厳粛な時は新しい生命の誕生と同様に、大切な素晴らしい瞬間であると思つておりますが、その時を迎えますと、地球人がいつのまにか作つた習慣や約束事で固められた行事で時間が過ぎて行く事を知りました。「誰がそんな法則を決めたのよ」と泣きたくなる思いで聞きたい人(ご主人)はもういないというもどかしさを感じました。

そういうことを否定し、形式的な事を嫌がつておりました亡夫も、今はピアノの上の小さな箱宮の中に納まり、ビールのジョッキを持つた彼が写真の中で微笑んでおります。主人は三男で全く関係はありません

したが○大社の社家の息子としてやはり最後は終わつたように思えます。私も若い方々に比べれば、これからの生き方を真剣に考えなければならぬ時期が来ているように思えます。かと申しまして特別何かしている理由ではございませんが、観自在にはほど遠い身であつても、日常の思念と行為を一つ一つ見つめながら、どちらにも片寄らない中道を保

つように修正すること、そして宇宙の意識の中で生かされることに感謝しながら肩を張ることなく、しなやかに生きてゆきたいと思つてます。どうぞ御指導をよろしくお願ひ致します。時節柄くれぐれも御自愛下さいますように。つたない文章でお恥づかしいですが何かのお役に立ちますようでしたら幸いに存じます。



▼東京月例セミナー 1997年1月12日/港区芝公園・機械振興会館



George Adamski

新アダムスキー全集

ジョージ・アダムスキー＝著／久保田八郎＝訳
全面改訂・改訳／全10巻／各 四六判



超絶した文明を持つ、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた！UFOや惑星群の驚異の実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性和真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔！

1 第2惑星からの地球訪問者 ●352頁●定価=1,980円

UFO研究者として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者自ら円盤や母船に乗り込み、他の惑星の超絶の大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

2 超能力開発法 (テレパシー、遠隔透視その他) ●192頁●定価=1,300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感じ、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文獻。

3 21世紀/生命の科学 ●208頁●定価=1,300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び「霊界通信の誤り」等を科学的に解説した超能力開発指図書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

4 UFO問答100 ●216頁●定価=1,300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混乱した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

5 金星・土星探訪記 ●380頁●定価=2,400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と木星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれ変わった亡き妻メリーとの劇的な対面が狂巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

6 UFOの謎 ●262頁●定価=1,980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文獻。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の实情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

7 21世紀の宇宙哲学 ●148頁●定価=1,030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

8 UFO・人間・宇宙 ●370頁●定価=2,400円

アダムスキー支持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が狂巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡来してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

9 UFOの真相 ●320頁●定価=1,980円

アダムスキーの薫陶を受けた人達による説教・講演録等を収録。宇宙の実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。アダムスキー氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ピーターセン、金星文字を解読して画期的な永久モーターを開発したバジル・バン・デン・バーグらの証言が白眉。「サンビエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

10 超人ジョージ・アダムスキー ●232頁●定価=1,300円

膨大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結編。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの巨人の人間像を克明に描写。これ一冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究者・久保田八郎が書き下ろし執筆。

別巻 UFO-宇宙からの完全な証拠 ●480頁●定価=2,800円

ダニエル・ロス＝著／久保田八郎＝訳

アメリカの気鋭UFO研究者ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真实性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。



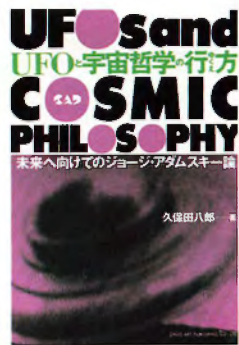
中央アート出版社
〒104 東京都中央区京橋3-7-13
TEL=03-3561-7017 / 郵便振替=00180-5-66324

*新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き+送料がサービスとなります。
*定価は、全て税込です。

UFOと宇宙哲学の行方(ゆくえ)

●久保田八郎著 定価1650円 送料310円 四六判・288頁

本書はわが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が「UFO contactee」に長年にわたって掲載してきた記事や講演から選りすぐって編纂したもので、UFO問題とアダムスキー哲学に関する著者の研究の集大成ともいえる内容になっています。2部構成になっている本書は、まず第1部でUFOと異星人に関する様々な問題について著者の見解を示し、続いて第2部では、アダムスキー哲学を人生に生かしたり、難病の治療に応用する実践法を明らかにしていきます。UFOを研究する人のガイドブックとしても最適の書です。



UFOと異星人の真相

●久保田八郎著 定価1650円 送料310円

四六判・256頁

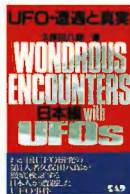


UFO研究の第一人者・久保田八郎が書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとにUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも迫るUFOを研究する人の必携の書です。

UFO・遭遇と真実—日本編—

●久保田八郎著 定価1500円 送料310円

四六判・264頁



日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編纂した本書は、実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。

※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。
ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。



中央アート出版社

〒104 東京都中央区京橋3-7-13
TEL=03-3561-7017 郵便振替=00180-5-66324

英文版「UFO contactee」No.12 日本GAP

B5版/12頁/コート紙使用/¥500 送料¥190 (No.1~3は品切れ)

日本GAPは日本語版「UFO contactee」誌を年4回発行するかわら、国際版として英文版「UFO contactee」誌を年1回刊行して世界のUFO研究団体や個人研究者と交流を保っています。本誌にはアダムスキー問題を主体にしたUFOと宇宙哲学関係記事を主体に掲載し、アダムスキー執筆の質疑応答書も連載しています。No.12には日本語版No.137に掲載された「UFO頻出のデザートセンター」の英文記事が写真入りで載せてあります。流麗な英文による本誌は英語学習にも最適です。日本GAPへハガキでご注文下されば代金あと払いでお送り致します。着後同封の振替用紙でご送金下さい。



短編集後記★★★

●本号はZ氏の「愛と救いの異星人交信」をひと休みして、「UFO頻出のデザートセンター」に掲載しました。この内容も重要です。今後前者は不定期の連載とします。
●UFO問題は依然としてナゾに包まれているかのごとき観を呈していますが、アダムスキーははるか昔に真相を解明しており、本誌はその線に沿った記事に掲載しています。時代を一世紀先取りしているような印象を与えるかもしれませんが、いずれは未来に証明されるでしょう。

●宇宙哲学的な記事も重視して提供していません。ただし宗教とは無関係です。アダムスキーの宇宙的な哲学を連載する理由は、彼がコンタクトした異星人のすべてが精神的に高度な発達をとげているという事実に基づきます。その意味でテレパシー、遠隔透視等の能力開発講座や体験記を今後も掲載します。

●転生の概念もこれから重視されるようになるでしょう。ケネディ大統領の転生に関する本号の記事は出色と自負しますが、ヨハン少年のその後の消息は不明です。

●UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。掲載分には薄謝を呈します。

●本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に直販で卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。

日本GAP専門誌・季刊 夏夏季号
UFO contactee 137号

編集発行人 久保田八郎

発行所 日本GAP

〒103東京都江戸川区本一色1-12-1-511

TEL=03-3651-0958

振替 00140-2-35912

一九九七年四月二十五日発行
定価九四〇円(本体九〇〇円)・送料240円

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※本年9月は総会のため月例セミナーは中止。 ※本年12月のみは地下3階の第2研修室に臨時変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」6階67号室。 ☎03-3434-8211。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅北口から東京タワー行きバスで約8分。 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側の入口から入る。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958	会場費 ¥1000 セミナー 受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:40 会員の講演。 1:45→3:15 久保田会長の能力開発 講義「宇宙哲学」 3:25→5:00 超能力開発練習/近況 報告/ビデオ映写/質疑。 ※日本GAP会員でなくても入場可。 ※会場に臨時売店開設。新グッズ キー全集、GAPグッズ等を販売。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先=平塚和義 ☎06-411-2367	¥500	東京月例セミナーにおける久保田会長の講義のビデオまたは録音テープを公開。テキストは上記と同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141代 JR東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩5分。 連絡先=林 国直 ☎0586-45-6468	¥500	同上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時は変更があるため、毎月事前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥500	同上
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時と会場は不定につき、事前に高野宛問い合わせること。	中央区北一条13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821 連絡先=高野省志 ☎011-783-6393	¥500	同上
旭川支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先=川上三秀 ☎166-61-0044	¥500	同上
沖縄支部	毎月第4火曜日 午後7:30→10:00	宜野湾市嘉数1-6-5 早川宅 ☎098-890-1324 連絡先=里 孝人 ☎098-835-3991	¥500	同上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同上
横浜支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市民文化会館」 ☎045-681-6551。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5995-6038	¥500	同上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2-2 みた好文カレッジ小集会室。 ☎029-224-6602。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎029-273-1903	¥300	同上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番地「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253 連絡先=博田文喜 ☎0264-24-3012	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時については事前に松口に問い合わせること。	和歌山県新宮市春日1番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー ☎0735-23-0005 JR新宮駅下車、徒歩5分、新宮市役所隣。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0384	¥300	同上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-2315	¥500	同上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30 ※日時は変更があるため事前に電話。	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463。JR坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同上
伊豆支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30 ※日時に変更があるため事前に高梨宛電話。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同上
福山支部	毎月第2日曜日に変更 午後1:00→4:00 ※日時は変更があるため事前に電話。	広島県福山市丸の内1-3「びんご荘」 ☎0849-25-3977。福山駅より徒歩3分。 連絡先=兼田(なつめだ) 雅則 ☎0847-52-6306	¥500	同上



オーゾン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーがカリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウエルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ガイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130

金星のシンボルマーク



中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80



ESPカード<超能力開発用>

テレパシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥1,500 送料¥130 (2~5個)¥190

テレフォンカード



日本GAP特製テレフォンカードの第8弾。1954年2月15日、イギリスのランカシャー州のコニスタンで、当時13歳のステイヴン・ダービヤン少年が撮影したアダムスキー型円盤。詳細は新アダムスキー全集第1巻「第2惑星からの地球訪問者」40頁に出ています。

¥1,500 送料10枚まで¥80



GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の英文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900 送料130



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで130



ブックカバー

主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で活押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80



新アダムスキー全集 訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けいたします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、10冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

申込先 上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替が現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP 振替 00140-2-35912

☎03-3651-0958



日本GAP能力開発カセットテープ

●「宇宙哲学」能力開発テープ ¥1500
送料1本¥190 計¥1690

日本GAP東京本部開催の月例セミナーで久保田会長が97年4月から毎月行なう「宇宙哲学」解説講義と質疑応答を録音したテープ。みずから宇宙哲学の実践により青年のような体力と気力を保つ70歳代会長の大いなる信念と勇気を起こさせる話をぜひお聴き下さい。宇宙的な覚醒感により人間が変わり運命も好転します。

●テープのご注文も代金後払いで結構です。○年○月分、個数、氏名、住所、電話番号を明記の上、ハガキでご注文下さい。ただし東京月例セミナーのテープはセミナー終了後、製作に約10日間を要します。



日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻VHS。

- 東京本部門例セミナー 全1巻 ¥3000
(内容) 久保田会長の解説講義、他、約120分。
- 日本GAP絵巻 全2巻各¥3000
(内容) 毎年開催される日本GAP総会を完全収録。(1989年度分から在庫あり)。
- 日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000
(内容) 旅行のハイライトをまとめた楽しいビデオ。(1989年度分から在庫あり)。

●米ワシントン市のアダムスキー大会における久保田会長の講演(英語)。全1巻 ¥3000
(内容) 1995年9月8日、久保田会長が英語で長時間講演しためずらしいビデオ。英文テキスト付き。日本語翻訳文は本誌131号に掲載。送料はビデオ1本¥390。2本以上3本まで¥700。

申込先 日本GAP

申込先 ご注文の際は品名、○年○月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金後払いは不可) 〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103 伊東芳和 振替 00140-8-13811 ☎03-3351-9526

